



徳島県農工商教育活性化方針（案）

～6次産業化を支える人材育成に向けて～

平成27年3月

徳島県教育委員会

はじめに

近年の科学技術の進展，産業界における知識・スキルの高度化に伴い，従来の分類を越えた複合的な産業が発展する中，これからの高等学校の専門教育においては，新たな産業を創出し，地域活性化を担う人材を育成することで，地方創生の実現に結びつけることが必要であります。

本県における専門教育の現状としては，平成23年3月に「徳島県農業教育活性化プラン」及び「徳島県商業教育活性化プラン」を策定し，農業・商業教育の活性化に計画的に取り組むとともに，工業教育においては，平成21年度に開校した徳島科学技術高校を中心校として，工業教育全体の活性化を推進してまいりました。

県教育委員会といたしまして，このような専門教育に関する取組の成果と課題を踏まえ，次代を担う即戦力を育成することを目的として，学識経験者等で組織する「徳島県農工商教育活性化協議会」からの報告をもとに，本県の農工商教育が取り組むべき新しい方針となる「徳島県農工商教育活性化方針」を策定いたしました。

本方針では，農業・工業・商業教育のそれぞれの活性化に向けた方策のもと，各高校における取組内容や数値目標を盛り込み，その実現に向けて計画的に取り組むこととしています。そして，産業の創出や地域活性化を担う人材育成において，農工商連携による6次産業化に対応した実践的な教育の必要性を明示しています。

農業・工業・商業科の設置高校においては，本方針を十分に活用していただき，各学校間の連携や高等教育機関等との協調，地域資源の教育への活用を図りながら，専門教育の活性化に向けた積極的な取組をお願いいたします。

最後になりましたが，本方針の策定にあたり，貴重な御意見をいただきました「徳島県農工商教育活性化協議会」の委員の皆様方に厚くお礼を申し上げます。

平成27年3月

徳島県教育委員会

教育長 佐野 義行

目次

策定の趣旨	1
第1章 本県農業教育の活性化	3
1 本県農業教育の現状と課題	4
(1) 本県農業教育の現状	4
(2) 本県農業教育の課題	7
2 本県農業教育における人材育成	8
(1) 人材育成の基本理念	8
(2) 本県農業教育が「育てるべき力」	9
3 本県農業教育の活性化に向けた取組	10
・参考資料 各農業科設置高校等の特色ある取組	12
第2章 本県工業教育の活性化	13
1 本県工業教育の現状と課題	14
(1) 本県工業教育の現状	14
(2) 本県工業教育の課題	17
2 本県工業教育における人材育成	18
(1) 人材育成の基本理念	18
(2) 本県工業教育が「育てるべき力」	19
3 本県工業教育の活性化に向けた取組	20
・参考資料 各工業科設置高校の特色ある取組	22
第3章 本県商業教育の活性化	23
1 本県商業教育の現状と課題	24
(1) 本県商業教育の現状	24
(2) 本県商業教育の課題	27
2 本県商業教育における人材育成	28
(1) 人材育成の基本理念	28
(2) 本県商業教育が「育てるべき力」	29
3 本県商業教育の活性化に向けた取組	30
・参考資料 各商業科設置高校の特色ある取組	32
第4章 本県農工商が連携した教育の取組	33
1 農工商連携の推進に関する国及び県の取組	34
(1) 国の取組	34
(2) 県の取組	35
2 農工商連携による6次産業化に対応した教育	36
(1) 各専門高校(分野)が連携した教育	36
(2) 高等教育機関や専修学校等と連携した教育	38
(3) 豊富な地域資源を生かした教育	40
3 6次産業化のさらなる発展に向けて	42
第5章 農工商設置高校が取り組む活性化策	43
・参考資料 徳島県農工商教育活性化協議会委員	63

策定の趣旨

グローバル化や情報化の進展などにより世界全体が急速に変化するなかで、専門教育は、技術革新の進展や産業構造の変化、労働市場の流動化などに対応していくことが求められる。

平成25年3月策定の徳島県教育振興計画（第2期）では、「キャリア教育の推進」における今後の取組として、

- 専門教育においては、長期間のインターンシップを積極的に設ける。
- 企業や大学、県の試験研究機関等と協働した施策や事業を積極的に行う。
- 新たな産業の創出に対応するために、学科の異なる専門高校の連携を促進する。
- 取組を国内外に広報するために、ICT等を活用した交流活動・情報発信を行う。
- 専門的な分野・領域の学習や進路学習等において、高大連携を推進する。

などをあげている。

また、国においては、平成26年6月の中央教育審議会のまとめのなかで、専門学科における課題と対応として、

- 地域の産業・社会に求められる人材の把握と育成、職業人としての知識・技能の高度化への対応、専門的な能力を高めるとともに、社会人に必要な基礎的な知識・技術の習得など、社会の要請に応じた実践的な職業教育の充実が必要である。
- 普通科よりも職業に関する目的意識の高い者が多いといった生徒の実態を踏まえ、専門学科の必要性を再認識する必要がある。
- 高等教育との接続を視野に入れた職業教育の充実や高等学校段階で身に付けるべき学力の確実な習得が求められている。

などを指摘している。

このような国の動きを踏まえた上で、本県の農業、工業、商業教育においては、今後とも経済社会の様々な情勢の変化に対応し、職業人として必要とされる力を身に付けた人材を育成するとともに、地域や産業社会の発展に貢献することが求められている。

そこで、本県の高等学校における、農業、工業、商業教育のさらなる活性化を推進するため、

- 専門分野に関する基礎的・基本的な知識、技術及び技能の定着と生涯に渡る継続的な学習能力を育成する。

- 将来の地域産業を担う人材育成の観点から、地域との連携を通じた実践的な教育により、実践力、コミュニケーション能力などの育成を図るとともに、地域への理解と貢献の意識を深めさせる。
- 人間性豊かな職業人の育成の観点から、職業人として必要な人間性を養うとともに、規範意識、倫理観等を育成する。

以上の3点を農業、工業、商業教育における共通の目標として「徳島県農工商教育活性化方針」を策定する。

なお、今後も技術革新の進展や産業構造の変化が進むことを踏まえ、推進期間については、2015（平成27）から2019（平成31）年度の5か年とする。

第1章 本県農業教育の活性化

1 本県農業教育の現状と課題

(1) 本県農業教育の現状

① 設置状況

本県の農業科設置高校は、本・分校合わせて5校である。

平成26年度農業科の設置状況

学校名	学科名	募集定員(名)	併設学科
城西高校	生産技術科	25	総合学科
	植物活用科	25	
	食品科学科	25	
城西高校神山分校	生活科	10	
	造園土木科	20	
小松島西高校勝浦校	応用生産科	25	
	園芸福祉科	20	
吉野川高校	農業科学科	25	会計ビジネス科 情報ビジネス科 食ビジネス科
	生物活用科	25	
三好高校	食農科学科	20	情報ビジネス科
	環境資源科	15	
計		235	

- ・ 城西高校は平成24年度に農業科を3学科に再編した。
- ・ 勝浦高校は平成22年度に普通科，園芸科を募集停止し，平成24年度に小松島西高校勝浦校となった。
- ・ 阿波農業高校は鴨島商業高校と再編統合し，平成24年度に吉野川高校となった。
- ・ 三好高校は平成27年度に情報ビジネス科を募集停止し，平成29年度に池田高校三好校となる。

② 農業科への進学希望状況

平成26年度中学3年生における農業科への進学希望率は，1.9%となっており，平成24年度での2.0%から0.1ポイントの減少となっている。

農業科への進学希望状況

(単位：名)

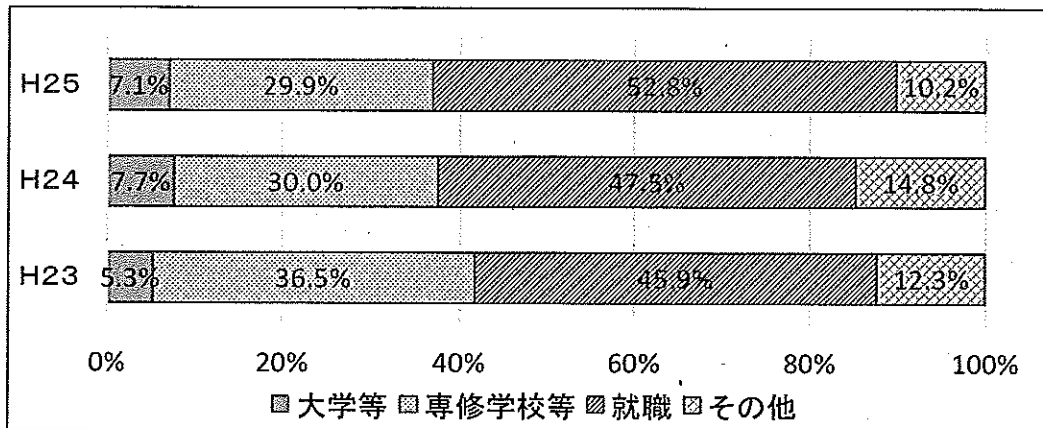
	平成24年9月	平成25年9月	平成26年9月
農業科希望者数	133	165	126
全日制公立高校希望者数	6,745	6,846	6,640
農業科への進学希望率	2.0%	2.4%	1.9%

③ 進路状況（平成23年度～平成25年度）

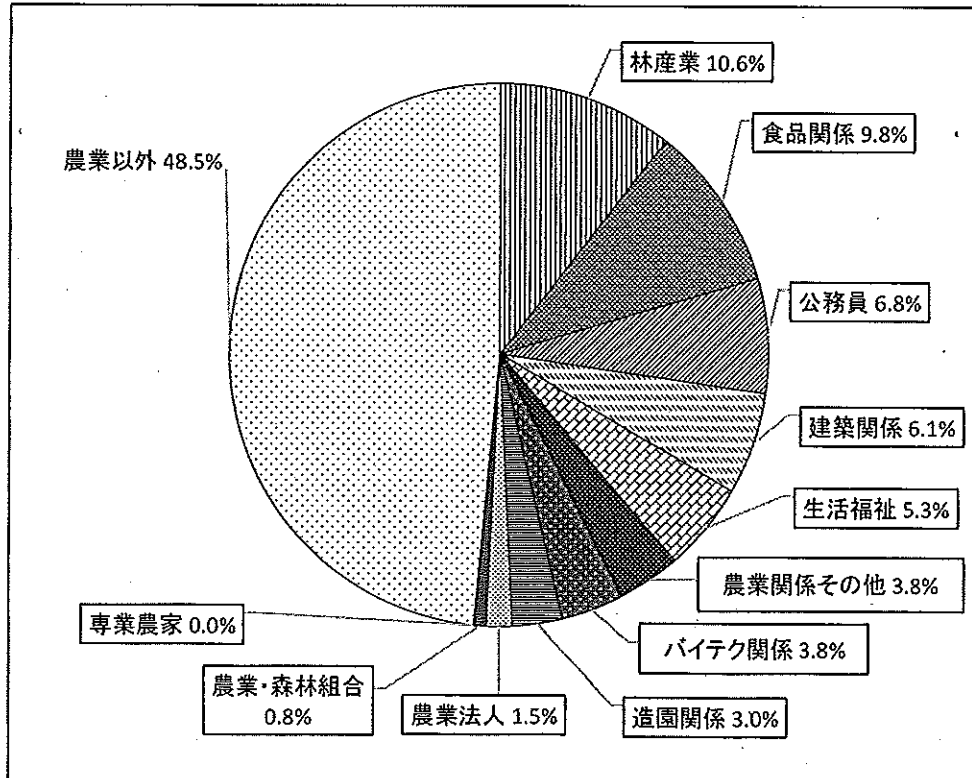
卒業後の進路状況は、平成25年度は52.8%の生徒が就職しており、平成23年度での45.9%から6.9ポイントの増加となっており、その内農業関連産業への就職率は51.5%である。

また、大学等への進学者数は減少しているが、専門分野を生かした農業関係進学割合は、平成25年度は40.8%であり、平成23年度での31.9%から8.9ポイントの増加となっている。

県内農業科卒業生の進路状況



県内農業科卒業生の職業別就職状況（平成25年度）



農業科卒業生の就職者状況

(単位：名)

	平成23年度	平成24年度	平成25年度
県内就職者数	59	73	80
県外就職者数	19	14	24
計	78	87	104
県内就職者数の割合	75.6%	83.9%	76.9%

農業大学校及び農学系学部への進学者状況

(単位：名)

	平成23年度	平成24年度	平成25年度
大学等進学	69	67	49
農業大学校	19	16	19
農学系学部（大学）	3	1	1
農業関係進学割合	31.9%	25.4%	40.8%

(2) 本県農業教育の課題

本県の農業教育の現状及び「徳島県農業教育活性化プラン」（推進期間：平成23～平成26年度）における取組内容をもとに、次の事項を本県農業教育の課題とする。

① 農業教育の新しい体制づくり

- 地域農業の担い手育成に向けて新たな産業（生命総合産業）を模索するなど次代のニーズに応じた魅力的な教育を展開し、その学習成果を広く広報する必要がある。
- 城西高校が、徳島県農業教育の中心校としての役割を担い、各農業科設置高校が機能分担し、参加体験型ネットワークの発展を目指す必要がある。
- 各農業科設置高校は、教育内容と対外的な活動を見直し、オンリーワン教育と資格取得等によって「教育の質の保証」を確立する必要がある。
- 農業教育においては、専門高校、企業、大学、研究機関等との連携や海外でのファームステイ等の先端知識・技術の学習やグローバル化を目指した学習を積極的に推進する必要がある。

② 専門教育の充実

- 地域の教育資源を活用し、各校の特色ある教育や専門的知識と高度な技術の習得に努め、農業及び林業の担い手を育てる必要がある。
- 農林水産総合技術支援センターや徳島大学などの農業関連機関等との連携強化を図る必要がある。
- 学校現場において、農業生産工程管理「とくしま安²GAP」を推進する必要がある。
- 専門的な技術を有する外部講師を招聘するとともに、生徒の実態に合わせた継続した研修を実践する必要がある。
- バイオ燃料の活用や持続的循環型農業など、人と自然にやさしいエネルギーについての知識と技術の習得に努める必要がある。

③ キャリア教育、進路指導の充実

- 様々な体験実習は、コミュニケーション能力の育成、社会性醸成の場となっているが、さらに流通販売の体験を充実させ、経営能力を身に付けることのできる指導に取り組む必要がある。
- 各高校版デュアルシステムの実施について検討する必要がある。
- 校内で生産した農業生産物を原材料として利用した商品開発を行い、6次産業化を目指す必要がある。
- 多様な資格取得に向けて積極的に取り組み、進路選択へ繋げる必要がある。

2 本県農業教育における人材育成

(1) 人材育成の基本理念

地域を支える・地域を創る次代の担い手育成 ～エコロジカル・アグリハイスクール～

人材育成の基本理念を定めるにあたっては、本県教育の基本理念である、「地域とともに、新たな価値を創造し、未来を切り拓く人を育てます」及び「郷土への誇りと国際的な視野を持ち、社会に貢献する人を育てます」のもと農業教育を実践することで、生徒の「生きる力」を育むとともに、心の教育やキャリア教育の充実を図り、人間性豊かな職業人を育成する。

① 農業教育の目標

農業の各分野に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、農業の社会的な意義や役割について理解させるとともに、農業に関する諸課題を主体的、合理的に、かつ倫理観をもって解決し、持続的かつ安定的な農業と社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を育てる。

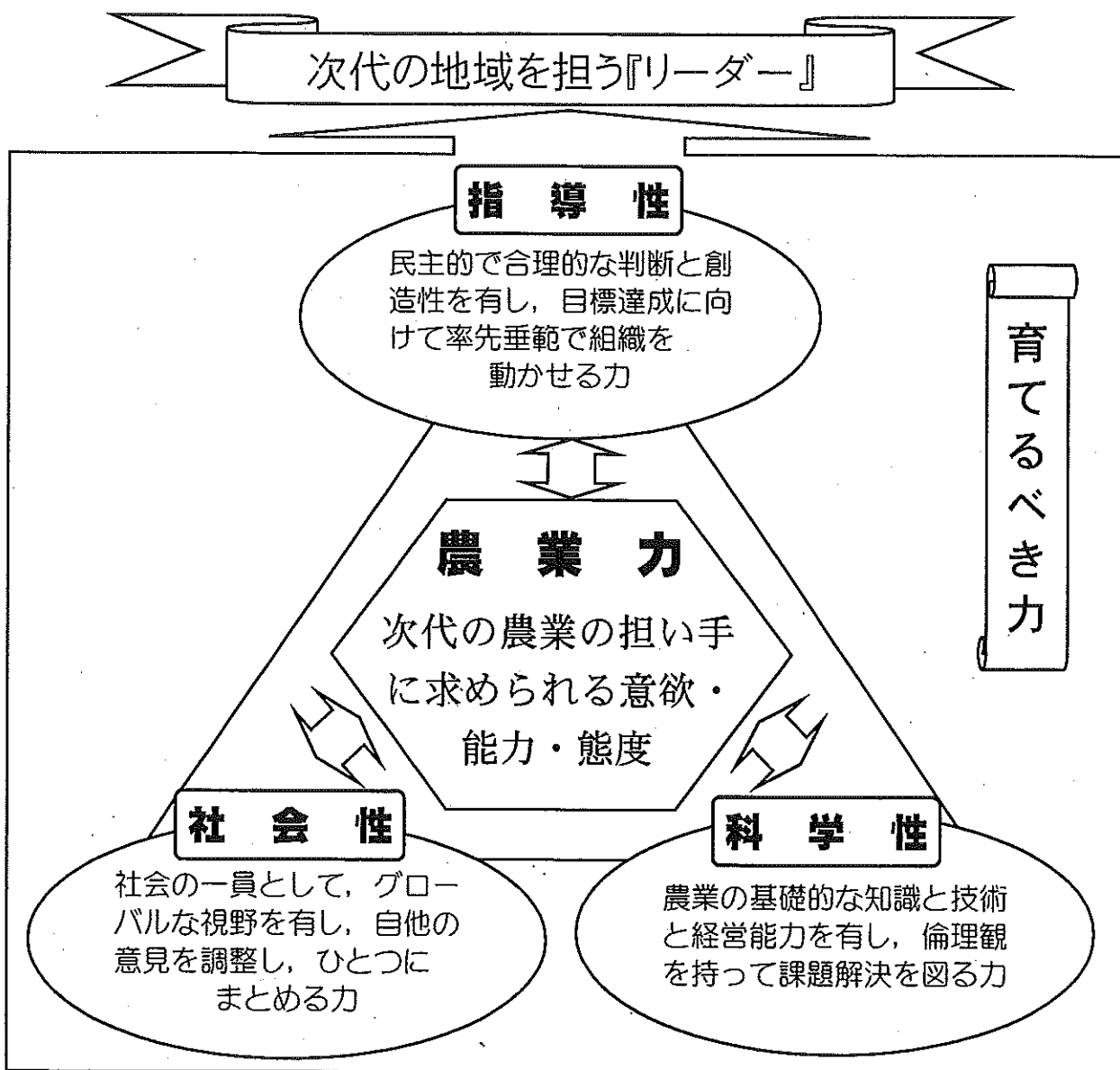
② 産業界等が求めるもの

- 専門分野の基礎・基本を身に付けたOJTに対応できる人材
- 幅広い知識と教養を身に付けたコミュニケーション能力のある人材
- 自分の仕事に誇りを持ち、積極性のある人材
- 体験的・実践的学習で養われたチャレンジ精神溢れる人材
- 地域連携の強化や海外への視野を広げる教育
- 農業、工業、商業の連携のなかで、生徒たちの夢を形に変える教育
- 高校再編による農工商の連携をプラスに生かす教育

(2) 本県農業教育が「育てるべき力」

- ① 合理的に考え、判断し、行動する「科学性」
 - 農業の基礎的な知識・技術及び経営力
 - 倫理観を持って課題を解決する力
- ② 社会の一員として協力・行動する「社会性」
 - 互いに認め合い高めあう協調性
 - グローバルな視野からの行動力
- ③ 目標達成に向け、より良い方向へと導き、行動する「指導性」
 - 民主的で合理的な判断力と創造力
 - 組織の中で目標達成に向けて主体的・積極的に取り組む行動力

農業教育における人材育成のイメージ



3 本県農業教育の活性化に向けた取組

若き農業の担い手を育成するとともに、かけがえのない、豊かな自然と美しい地球環境を守り、命を尊び、かつ、我が国が循環型社会に移行するために、積極的にその役割を果たすよう取り組む。

- 方策1 エコロジカル・アグリハイスクールの推進
- 方策2 勢いのある強い農業教育の推進
- 方策3 地域貢献，地域連携及び地域に開かれた学校づくりの推進
- 方策4 経営能力，倫理観を持ったスペシャリストの育成
- 方策5 国際的視野を備えた担い手の育成
- 方策6 自然災害による被害の軽減に努める人材の育成

方策1 エコロジカル・アグリハイスクールの推進

- 持続可能な循環型社会の実現を目指す農業教育を推進する。
- 環境保全型農業を推進する。
- 絶滅危惧種の保護活動や自然環境保全活動等による環境教育を推進する。

方策2 勢いのある強い農業教育の推進

- 城西高校を徳島県農業教育の中心校と位置づけ，農業教育学会及び学校農業クラブ活動等の対外的な事業の円滑な運営を図るとともに各農業科設置高校が特色ある教育を推進する。
- 計画的な採用と適材配置に努めるとともに資質向上研修を推進する。
- もうかる学校農場経営により活力ある農業教育を推進する。

方策3 地域貢献，地域連携及び地域に開かれた学校づくりの推進

- 地域の名人や達人の活用や産・官・学の連携を推進する。
- 地域の農業知識と技術のデータバンク化を推進し活用方法を追求する。
- 伝統文化の継承等地域の教育資源を活用した学習を推進する。

方策4 経営能力，倫理観を持ったスペシャリストの育成

- GAP及び6次産業化（生命総合産業）に向けた教育を推進する。
- 先進農家や企業への就業体験等を推進する。
- 職業資格や検定取得を推進する。

方策5 国際的視野を備えた担い手の育成

- 海外への積極的な情報発信と情報収集により，グローバルな視野を持った農業の担い手を育成する。
- 教育活動に海外研修やファームステイ等を位置づけ，国際交流を推進する。
- 国内販売はもとより海外へ輸出する地域ブランドの開発を進める。

方策6 自然災害による被害の軽減に努める人材の育成

- 国土保全と自然災害等による被害軽減・復興について学習を推進し，その学習成果を全国へ発信する。
- 被災者の受け入れと被災地域を支援できる農業高校づくりを推進する。
- 生き抜くための知識・技術とともに地域防災の担い手を育成する。

《参考資料》 各農業科設置高校等の特色ある取組

学 校 名 ----- 設 置 学 科	特色ある教育の取組等 (平成23～25年度)
城西高校 ----- ■生産技術科 ■植物活用科 ■食品科学科	●中心校として、幅広い農業分野の教育推進と次世代農業のリーダーを育てる農業教育 ○在来種キュウリなど徳島県の伝統野菜の栽培利用研究 ○農業生産工程管理「GAP」による食品安全・環境保全等を目指した取組 ○校内農産物販売所「そよかぜ」や中洲市場等での販売活動と地産地消の推進 ○袋井用水の水質浄化を目指す関係機関と連携した環境教育の推進 ○校内農場「そよかぜ農園」での幼稚園児・小学生との交流・農業体験学習の展開 ○阿波藍の栽培から染色・商品開発までの一貫した学習と6次産業化の推進 ○阿波和三盆糖を生かした商品開発など徳島県の伝統文化を継承する取組 ○農業教育学会関係の諸活動の推進と様々な活動の県民への広報
城西高校 神山分校 ----- ■造園土木科 ■生活科	●地域資源を活かし、造園と希少植物保護等を特色とした産業人を育てる農業教育 ○庭園づくりなど県内唯一の造園教育 ○ジンリョウユリの増殖・保護活動 ○造園技能検定・園芸装飾検定等、資格検定取得の推進 ○徳島県アドプト事業への参加 ○地域の教材を活用した山野草や希少植物などを取り入れた学習 ○農業生産工程管理「GAP」など、食の安全・安心や食育を目指した取組
小松島西高校 勝浦校 (勝浦高校) ----- ■応用生産科 ■園芸福祉科	●植物による癒し効果や中山間地農業の活性化の担い手を育てる農業教育 ○学校設定科目「地域農業」「LBD活用」から学ぶ取組 ○農業生産工程管理「GAP」など、食の安全・安心や食育を目指した取組 ○熱帯果樹の栽培を取り入れた学習 ○棚田の整備など環境保全活動 ○地域の教材を活用した山野草や希少植物などを取り入れた学習 ○人形浄瑠璃など伝統文化の継承
吉野川高校 (阿波農業高校) ----- ■農業科学科 ■生物活用科	●養蜂・生物活用を特色とし、6次産業化の担い手を育てる農業教育 ○高大連携でアレルギーフリーメロンの研究 ○開放講座など地域住民との交流事業 ○希少植物のアサザの保護・増殖など環境保全活動 ○農業生産工程管理「GAP」など、食の安全・安心や食育を目指した取組 ○校種間連携による押し花アート、フラワーアレンジメントの指導 ○食ビジネス科との連携による商品開発 ○幼・小・中学校、特別支援学校との交流
三好高校 ----- ■環境資源科 ■食農科学科	●動物飼育や菌類・薬用植物等で地場産業の担い手を育てる農業教育 ○ホンシメジなどブランド化と地域への普及 ○ホンモロコの養殖 ○バイオエタノール試験製造 ○ブルーベリーの栽培など地域産業や環境を活かした学習 ○青玉ハッサクの栽培管理と地域活性化に向けた普及活動 ○地域産業と連携した清酒の製造 ○家畜の飼育技術など畜産教育の推進 ○幼・小・中学校、特別支援学校との交流

第2章 本県工業教育の活性化

1 本県工業教育の現状と課題

(1) 本県工業教育の現状

① 設置状況

本県の工業科設置高校は3校であり、平成26年度より、工業科単独校は阿南工業高校の1校である。

平成26年度工業科の設置状況

学校名	学科名	募集定員(名)	併設学科	
徳島科学技術高校 (全日制)	総合科学類	60	海洋科学類 海洋技術類	
	機械技術類	70		
	電気技術類	65		
	建設技術類	85		
	(定時制)	機械類		20
		工業技術類		20
阿南工業高校	機械科	70	/	
	電気科	30		
	建設科	25		
つるぎ高校	電気科	55	商業科 地域ビジネス科	
	機械科	55		
	建設科	25		
計	(全日制)	540		
	(定時制)	40		

- ・ 阿南工業高校は平成24年度に学科再編を実施した。
- ・ 貞光工業高校は美馬商業高校と再編統合し、平成26年度につるぎ高校となった。

② 工業科への進学希望状況

平成26年度の中学3年生の工業科への進学希望率は、10.0%となっており、平成24年度での9.9%から0.1ポイントの増加となっている。

工業科への進学希望状況

(単位：名)

	平成24年9月	平成25年9月	平成26年9月
工業科希望者数	671	748	664
全日制公立高校希望者数	6,745	6,846	6,640
工業科への進学希望率	9.9%	10.9%	10.0%

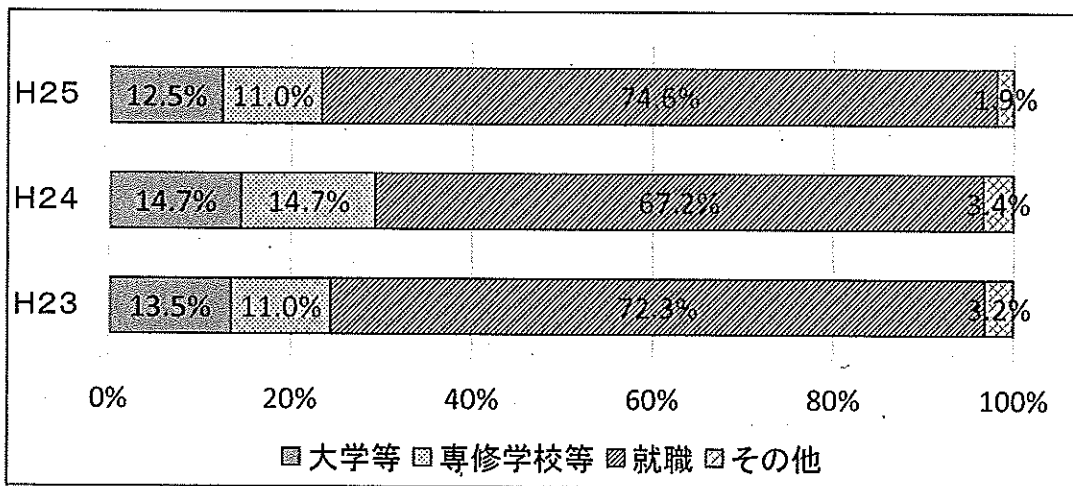
③ 進路状況（平成23年度～平成25年度）

就職率は、2年前と比較して72.3%から74.6%に増加しており、平成25年度の県内就職率は、63.6%となっている。

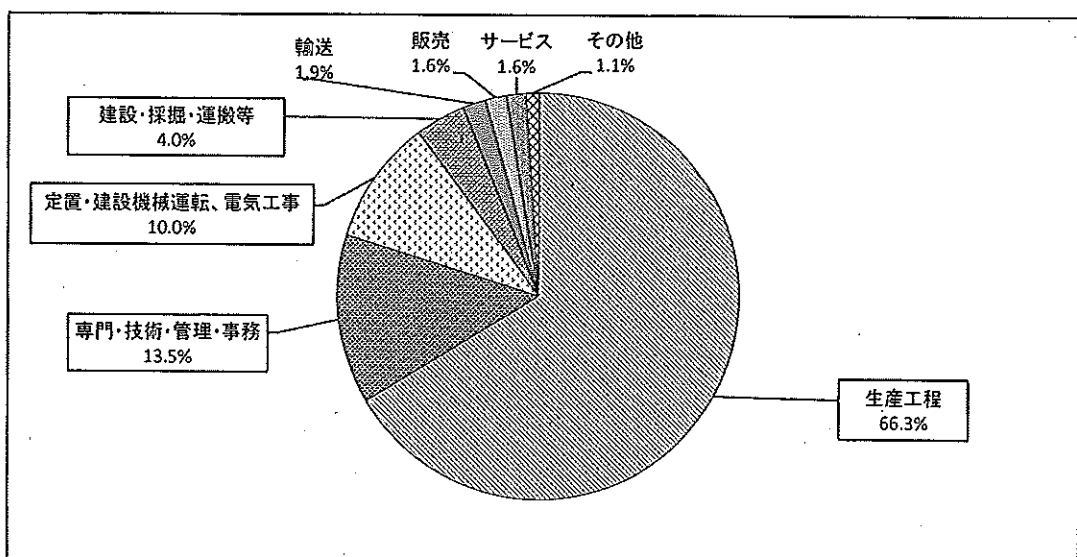
平成25年度の新卒者のうち、「生産工程」「専門・技術・管理・事務」「定置・建設機械運転、電気工事」「建設・採掘・運搬等」の職業に占める割合が93.8%となっている。

また、大学等進学は減少傾向であるが、専門分野を生かした工学関係への進学率が平成25年度では52.8%となっている。

県内工業科卒業生の進路状況



県内工業科卒業生の職業別就職状況（平成25年度）



工業科卒業生の就職者状況

(単位：名)

	平成23年度	平成24年度	平成25年度
県内就職者数	312	286	273
県外就職者数	128	104	156
計	440	390	429
県内就職者数の割合	70.9%	73.3%	63.6%

大学等進学のうち、工学関係への進学率

(単位：名)

	平成23年度	平成24年度	平成25年度
大学等進学	84	86	72
工学関係	43	32	38
割合	51.2%	37.2%	52.8%

(2) 本県工業教育の課題

本県の工業教育の現状及び平成21年4月に開校した徳島科学技術高校を中心とした取組内容をもとに、次の事項を本県工業教育の課題とする。

① 工業教育の新しい体制づくり

- 徳島科学技術高校を中心とした各工業科設置高校の機能分担を明確にし、ネットワークをさらに充実する必要がある。
- 各学校が的確に地域のニーズを捉え、その必要性を再確認し、地域の実態に応じた実践的な工業教育を展開することで、地域における「ものづくり」の拠点となる必要がある。
- 従来からの広報活動に加え、より一層効果的なPRのため、戦略的な広報活動に取り組んでいく必要がある。

② 専門教育の充実

- 産業構造の変化、職業の多様化など社会の変化に柔軟に対応した専門教育を行う必要がある。
- 大学・専門学校への進学者のうち、専門性を生かした工学系分野への進学は約5割程度であることから、高等教育機関と積極的に連携を図り、高等教育との接続を視野に入れた教育を展開する必要がある。
- 地域のニーズに対応した、地域産業の振興に貢献する人材の育成を図るため、地元産業界と連携した専門教育を展開する必要がある。
- 専門教育の実践的指導を行う教員の資質と指導力向上のため、研修等を充実させる必要がある。

③ キャリア教育、進路指導の充実

- 各学校の教育方針や特色ある教育に基づき、組織的で体系的なキャリア教育をさらに実践していく必要がある。
- 各学校のキャリア教育において、地域が持つ教育的資源の活用のため、地域の企業・経済団体・NPO法人等と継続的に連携するとともに、それをシステム化していく必要がある。
- 国家資格・検定試験、民間の技能検定、全国高等学校長協会主催の検定試験などについては、生徒の学習意欲の向上や進学・就職時の評価等にもつながることから、各学校においては、取得への啓発と合格率の向上を図る必要がある。

2 本県工業教育における人材育成

(1) 人材育成の基本理念

豊かな創造力と国際的な視野を持ち、確かな知識・技術と
「ものづくり」の実践力を備えた職業人の育成

人材育成の基本理念を定めるにあたっては、本県教育の基本理念である、「地域とともに、新たな価値を創造し、未来を切り拓く人を育てます」及び「郷土への誇りと国際的な視野を持ち、社会に貢献する人を育てます」のもと、工業教育の目標に則り、職業人に必要な基礎的・基本的な知識・技能の習得に加え、産業界等からの意見も考慮し、グローバル化、専門的な知識・技術の高度化に対応する実践的な教育と地域産業や地域社会を担う人材の育成を目指す必要がある。

① 工業教育の目標

工業の各分野に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、現代社会における工業の意義や役割を理解させるとともに、環境及びエネルギーに配慮しつつ、工業技術の諸問題を主体的、合理的に、かつ倫理観を持って解決し、工業と社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を育てる。

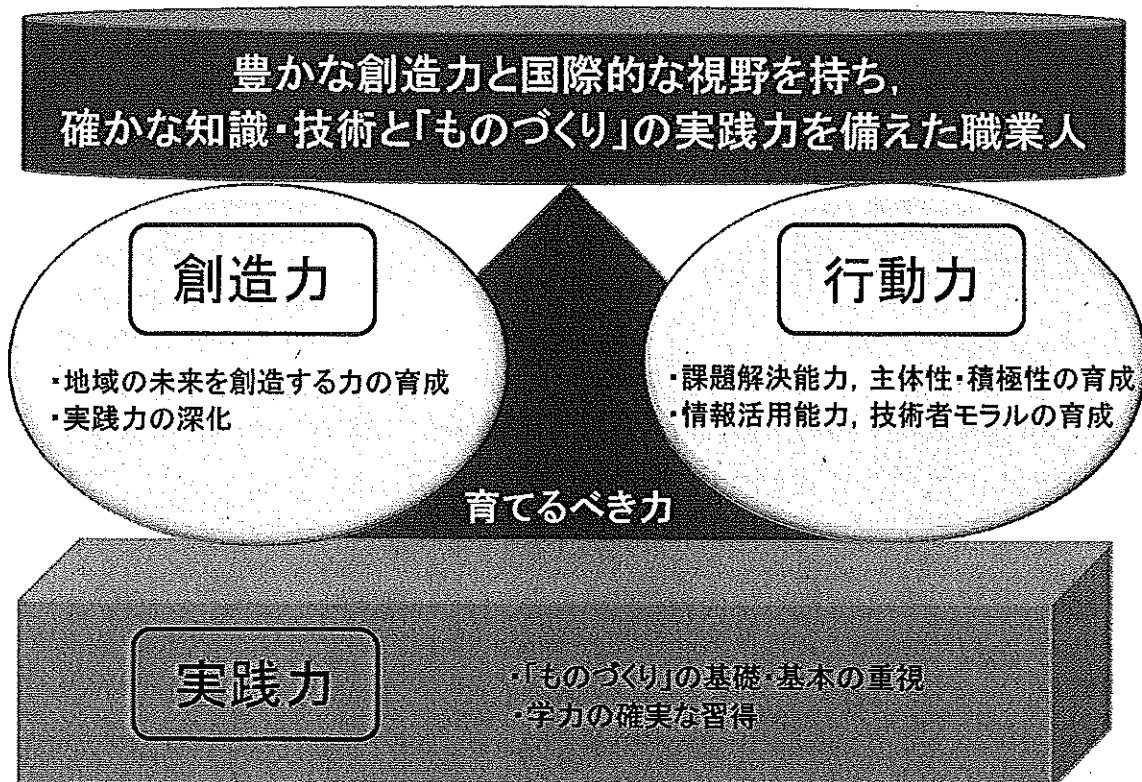
② 産業界等が求めるもの

- 専門分野の基礎・基本を身に付けたOJTに対応できる人材
- 幅広い知識と教養を身に付けたコミュニケーション能力のある人材
- 自分の仕事に誇りを持ち、積極性のある人材
- 体験的・実践的学習で養われたチャレンジ精神溢れる人材
- 地域連携の強化や海外への視野を広げる教育
- 農業、工業、商業の連携のなかで、生徒たちの夢を形に変える教育
- 高校再編による農工商の連携をプラスに生かす教育

(2) 本県工業教育が「育てるべき力」

- ① 「ものづくり」のスペシャリストとして必要な「実践力」
 - 各専門分野に必要な基礎・基本を重視し、体験的な学習を通して職業人として必要な実践力を育成する。
 - 高等教育機関と連携し、その接続も視野に入れた職業教育により、高校段階で身に付けるべき学力の確実な習得を図る。
- ② 地域産業の未来を担う「創造力」
 - 地域産業や地域社会との連携・交流を通じた実践的教育，地域の人材を活用した授業等を充実し，コミュニケーション能力，社会への適応能力，地域の未来を創造する力を育成する。
 - 有用な国家資格や各種検定，競技会への挑戦等，目標を持った意欲的な学習を通じて，知識，技術・技能の定着と実践力の深化を図る。
- ③ グローバル社会で活躍できる「行動力」
 - 社会のグローバル化に対応するため，プレゼンテーション能力，課題解決能力，主体的・積極的に行動する力を育成する。
 - 様々な情報が氾濫するなか，情報及び情報手段を主体的に選択し，活用していくための情報活用能力や知的財産を踏まえた技術者モラルを育成する。

工業教育における人材育成のイメージ



3 本県工業教育の活性化に向けた取組

豊かな創造力と国際的な視野を持ち、確かな知識・技術と「ものづくり」の実践力を備えた職業人を育成するため、本県工業教育が取り組む方策を策定し、工業科設置高校がそれぞれ目標を定め、工業教育のさらなる活性化に向けて、計画的に取り組む必要がある。

- 方策1 工業科ネットワークの強化と機能分担
- 方策2 実践的なキャリア教育の推進
- 方策3 グローバル化に対応した教育の推進
- 方策4 大学・公的教育機関・企業等との連携強化による工業教育の充実
- 方策5 教員の高度な専門性の確立と指導力の向上
- 方策6 6次産業化の取組による地域連携の推進

方策1 工業科ネットワークの強化と機能分担

- 徳島科学技術高校を中心として、各学校で役割を分担し、機能的でしかも強いネットワークを構築する。
- 各工業科設置高校が地域における「ものづくり」の拠点となるため、地域性や強みに応じた取組を重点化し、特色を明確化する。
- 工業を学ぶ系列がある総合学科設置校と連携を強化し、県全体の工業教育のさらなる充実を図る。
- 中学生とその保護者をはじめ、広く県民に対して、ICTを積極的に活用し、より戦略的な広報活動を展開する。

方策2 実践的なキャリア教育の推進

- 地域産業界や関係団体、行政機関と連携強化を進め、インターンシップなどキャリア教育における協力体制の構築を目指す。
- ガイダンスによる啓発や計画的な補習などにより、資格試験の受験者、合格者の増加と学習意欲の向上を図る。
- 異校種間連携による教育活動及び地域の実情に応じた防災教育を推進する。

方策3 グローバル化に対応した教育の推進

- 海外の高校、県外先進校等との技術交流などにより、国際的視野を広げる教育活動を推進する。
- ICTを活用した海外への情報発信や海外からの情報収集などにより、情報を取捨選択し、活用する能力と情報モラルの育成を図る。
- 各種発表会を実施し、プレゼンテーション能力、課題解決能力を育成する。

方策4 大学・公的教育機関・企業等との連携強化による工業教育の充実

- 最先端のロボット技術など高度な専門技術を習得するため、高等教育機関と積極的な連携を図る。
- 地元企業の施設設備、高度熟練技術者等を有効活用し、より実践的な知識、技術・技能を習得する。
- 公的教育機関と連携し、「ものづくり」に関する技術・技能の深化を図る。

方策5 教員の高度な専門性の確立と指導力の向上

- 技術革新に対応できる高い専門性と実践的な指導力を身に付けるため、企業や高等教育機関等を活用した教員研修を実施する。
- 「活性化」を推進するコーディネーターを養成し、校内研修体制を確立する。
- 各学校の優れた技術・技能を持つ工業科教員による教員研修を実施し、その技の継承と伝達を図る。

方策6 6次産業化の取組による地域連携の推進

- 農林水産業を学ぶ学科と積極的に連携し、産業構造の変化や技術の進捗等に柔軟に対応できる技術者を育成する。
- 地域の産業界、関係団体、行政機関と協力し、地域資源を活用した製品開発に取り組み、地域振興に貢献する人材の育成を図る。
- 先進事例の体験的な学習や先駆者の講演会などにより、「ものづくり」に対する豊かな創造力を育成する。

《参考資料》 各工業科設置高校の特色ある取組

学校名 設置学科	特色ある教育の取組等（平成23～25年度）
<p>徳島科学技術高校</p> <p>全日制</p> <p>■総合科学類 情報科学コース 環境科学コース</p> <p>■機械技術類 機械コース 生産システムコース</p> <p>■電気技術類 電気コース 情報通信コース</p> <p>■建設技術類 環境土木コース 建築コース 総合デザインコース</p>	<p>●科学技術の高度化・複合化，社会の変化や産業界の要望に対応した専門教育の推進，人・地球にやさしいものづくりの推進と国際社会で活躍することのできる人材の育成</p> <p>○地域や産学官の連携による学習意欲の向上，学力を伸ばさせるカリキュラムの開発（開発型スーパーサイエンスハイスクール）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校設定科目の開設 ・自然エネルギーに関する技術の研究および教材研究 ・環境調査（新町川の水質調査など） ・スターリングエンジン等の設計・製作の研究 ・炭コンクリートの特性調査・研究 ・水産・海洋研究所の調査研究・設計 ・環境に配慮したパッケージデザインの制作 ・保全環境につながる製品の研究・開発（杉材を利用した家具の開発） <p>○「ものづくり」を通じた持続可能な社会の発展と地域貢献に向けた活動（ユネスコスクール）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域連携による工業技術を生かしての防災訓練（無線機等の活用，防災グッズの製作，幼稚園・保育所・近隣住民との合同避難訓練） ・東日本大震災被災地への支援（遊具，木馬，丸太ベンチ等の寄贈） ・環境貢献ビジネスモデル事業（生徒作品出展，建築甲子園設計コンペ） ・科学フェスティバル等への出展，小中学校への出前授業 <p>○工業の各専門分野における生徒の実践的な知識や技術の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各類・コースごとに生徒の技能熟練度を評価するスキル検定を実施 ・資格試験・技能検定への取組（高校で取得できる資格等の開拓と指導体制の確立） ・ものづくりコンテスト・ロボット競技会を通しての技術力向上 ・製図コンクールを通しての資質の向上 ・指導力向上のための教員研修会実施
<p>定時制</p> <p>■機械類 機械コース</p> <p>■工業技術類 電気コース 建築コース</p>	<p>●職業人としてのスキルを身に付け，地域社会に貢献する人材の育成</p> <p>○学びのセーフティネットの充実を目指す</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学業と仕事・アルバイト等との両立 ・“わかる授業”の展開と自己肯定感の育成 ・各種資格・検定の取得 ・ものづくり及び防災関連グッズの製作
<p>阿南工業高校</p> <p>■機械科 ■電気科 ■建設科</p>	<p>●地域企業と連携したキャリア教育など，地域に根ざし地域に貢献する工業教育の推進</p> <p>○インターンシップによるキャリア教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2学年全員が参加するインターンシップを実施 ・地元企業，地域の匠に年間20日程度の長期インターンシップを実施 <p>○ものづくりによる地域との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近隣小学校へのものづくり製品の寄贈（ブックスタンドの寄贈 [平成24年～]） ・ものづくりによる防災関連製品（家具転倒防止金具）配布による地域貢献 <p>○高度熟練技術者による技術指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域企業の熟練工による塑性加工や溶接，高強度コンクリート製造に係る実技指導の実施 ・旋盤，溶接，塑性加工，とびマイスターによる技術指導の実施 ・2級技能検定普通旋盤作業合格（平成23年度1名，平成25年度1名） ・四国地区高校生溶接技術競技会準優勝（平成24年度） <p>○模擬株式会社「鉄男」による地域連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フラワースタンドの製作・販売，車椅子寄贈ボランティアの実施 ・近隣高等学校や中学校等からの依頼を受けての大型作品（防球ネット等）の製作
<p>貞光工業高校 (つるぎ高校)</p> <p>■電気科 ■機械科 ■建設科</p>	<p>●高度な資格を取得し，高い専門性を身に付けた技術者を育成する工業教育の推進</p> <p>○高度な国家資格への挑戦</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第三種電気主任技術者などの取得者増に向けた積極的取組 <p>○高度熟練技術者による技術指導の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旋盤，型枠，瓦の熟練工による技術指導に実施 <p>○「ものづくり」を通じた地域貢献活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・GISを用いた巨樹マップ，地域防災マップの作成 ・親子マイコンカー製作教室の実施 <p>○学校間連携による工商連携の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工業科・商業科連携による「みまから」の6次産業化のための交流学习

第3章 本県商業教育の活性化

1 本県商業教育の現状と課題

(1) 本県商業教育の現状

① 設置状況

本県の商業科設置高校は7校であり、平成26年度より、商業科単独校は徳島商業高校の1校である。

平成26年度商業科の設置状況

学校名	学科名	募集定員(名)	併設学科
徳島商業高校	情報処理科	70	
	会計情報科	70	
	商業科	140	
小松島西高校	商業科	70	食物科, 生活文化科, 福祉科
富岡東高校	商業科	40	普通科, 看護科
海部高校	情報ビジネス科	25	普通科, 数理科学科
吉野川高校	会計ビジネス科	35	農業科学科 生物活用科
	情報ビジネス科	30	
	食ビジネス科	30	
つるぎ高校	商業科	25	電気科 機械科 建設科
	地域ビジネス科	25	
三好高校	情報ビジネス科	15	食農科学科 環境資源科
計		575	

- ・ 鴨島商業高校は阿波農業高校と再編統合し、平成24年度に吉野川高校となった。
- ・ 美馬商業高校は貞光工業高校と再編統合し、平成26年度につるぎ高校となった。
- ・ 徳島商業高校と三好高校は平成24年度に学科再編を実施した。
- ・ 三好高校の情報ビジネス科は平成27年度より募集を停止する。

② 商業科への進学希望状況

平成26年度の中学3年生の商業科への進学希望率は、8.4%となっており、平成24年度での7.7%から0.7ポイントの増加となっている。

商業科への進学希望

(単位:名)

	平成24年9月	平成25年9月	平成26年9月
商業科希望者数	519	521	559
全日制公立高校希望者数	6,745	6,846	6,640
商業科への進学希望率	7.7%	7.6%	8.4%

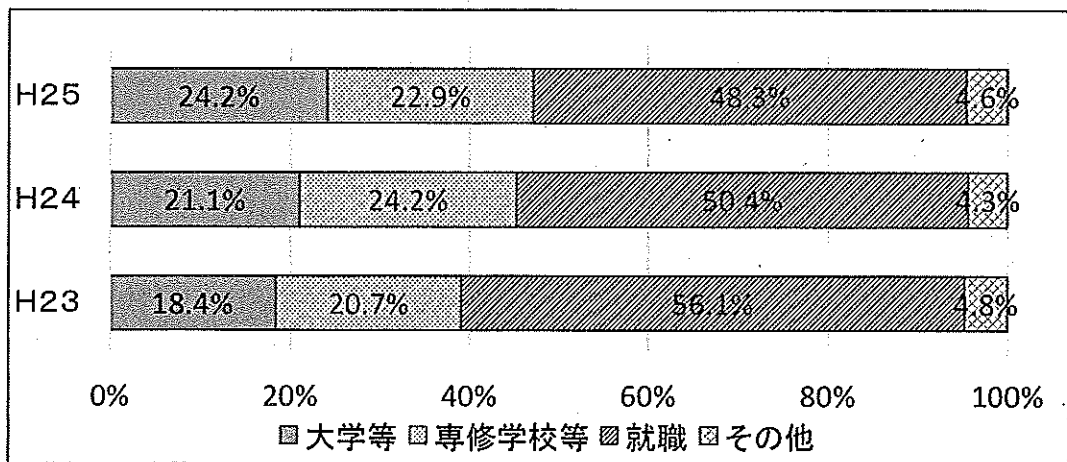
③ 進路状況（平成23年度～平成25年度）

就職者の割合は、2年前と比較して56.1%から48.3%に減少しており、平成25年度の県内就職率は81.9%となっている。

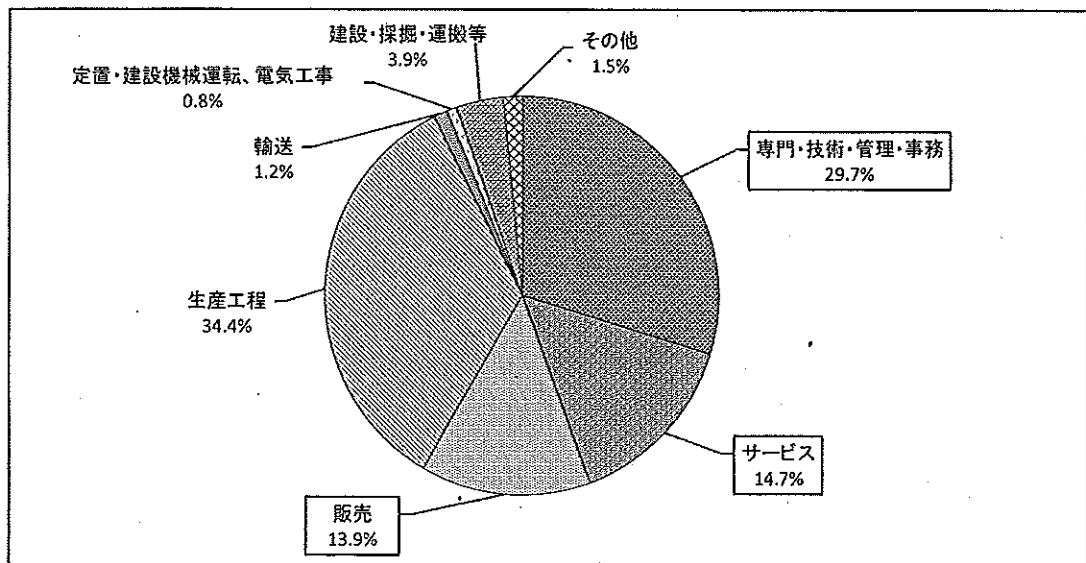
就職者のうち、「専門・技術・管理・事務」「サービス」「販売」の職業に占める割合が58.3%となっている。

大学等進学は増加傾向であるが、専門分野を生かした経済・経営・商学関係への進学率が平成25年度では39.1%となっている。

県内商業科卒業生の進路状況



県内商業科卒業生の職業別就職状況（平成25年度）



商業科卒業生の就職者状況

(単位：名)

	平成23年度	平成24年度	平成25年度
県内就職者数	248	246	227
県外就職者数	69	44	50
計	317	290	277
県内就職者の割合	78.2%	84.8%	81.9%

大学等進学のうち、経済・経営・商学関係への進学率

(単位：名)

	平成23年度	平成24年度	平成25年度
大学等進学	104	121	138
経済・経営・商学関係	43	51	54
割合	41.3%	42.1%	39.1%

(2) 本県商業教育の課題

本県の商業教育の現状及び「徳島県商業教育活性化プラン」（推進期間：平成23～平成26年度）における取組内容をもとに、次の事項を本県商業教育の課題とする。

① 商業教育の新しい体制づくり

- 徳島商業高校を中心とした商業科設置高校のネットワークを充実させる必要がある。
- 他学科との連携の在り方を研究し、地元産業界や地域社会から評価される教育活動に取り組む必要がある。
- 商業科の特色ある教育内容や優れた取組について、中学校や保護者等への周知を図るなど、社会に一層広めるための取組を進める必要がある。

② 専門教育の充実

- 企業関係者等とのコミュニケーションを通じて、企業や地域の課題を抽出し、解決できる能力や態度を育成する必要がある。
- 地元起業家やマイスターによる生徒への指導などにより、職業人としての専門的知識・技術を向上させる必要がある。
- 地域資源を農工商連携に有効活用し、地域ならではのビジネスモデルの創造や地域ブランドを確立できる人材育成に取り組む必要がある。
- 大学等進学者の約40%が専門性を生かした学部に進学することから、高等教育との接続を視野に入れた教育内容の充実や、高等学校段階で身に付けるべき学力を確実に育成する必要がある。
- 上級資格取得に向けた教職員の資質向上や指導体制の充実を図る必要がある。

③ キャリア教育、進路指導の充実

- インターンシップの必要性や効果について、生徒や教職員の理解を更に深める必要がある。
- 日商簿記検定試験や情報処理関係の国家資格に関する社会的評価の高さを認識させ、資格取得に対する意識付けを深める必要がある。
- 県内への就職者が80%を超えることから、地域産業界と連携した実践的な教育を推進し、地域産業の即戦力となる人材を育成する必要がある。

2 本県商業教育における人材育成

(1) 人材育成の基本理念

ビジネスを実践する力，産業を創造する力を備えた，人間性豊かな職業人の育成

人材育成の基本理念を定めるにあたっては，本県教育の基本理念である，「地域とともに，新たな価値を創造し，未来を切り拓く人を育てます」及び「郷土への誇りと国際的な視野を持ち，社会に貢献する人を育てます」のもと，商業教育の目標に則り，職業人の育成に必要な専門性の基礎・基本に加え，産業界等からの意見も考慮し，地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う，本県ならではの人材育成を目指す必要がある。

① 商業教育の目標

商業の各分野に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ，ビジネスの意義や役割について理解させるとともに，ビジネスの諸活動を主体的，合理的に，かつ倫理観をもって行い，経済社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を育てる。

② 産業界等が求めるもの

- 専門分野の基礎・基本を身に付けたOJTに対応できる人材
- 幅広い知識と教養を身に付けたコミュニケーション能力のある人材
- 自分の仕事に誇りを持ち，積極性のある人材
- 体験的・実践的学習で養われたチャレンジ精神溢れる人材
- 地域連携の強化や海外への視野を広げる教育
- 農業，工業，商業の連携のなかで，生徒たちの夢を形に変える教育
- 高校再編による農工商の連携をプラスに生かす教育

(2) 本県商業教育が「育てるべき力」

① スペシャリストとしての「専門性」

- 専門性の基礎・基本を一層重視するとともに、体験的学習等を通じて、実践力を育成する。
- 資格取得や成果発表会への挑戦等、目標を持った意欲的な学習により、専門分野に関する知識、技術、技能の定着や積極性・創造性を育成する。

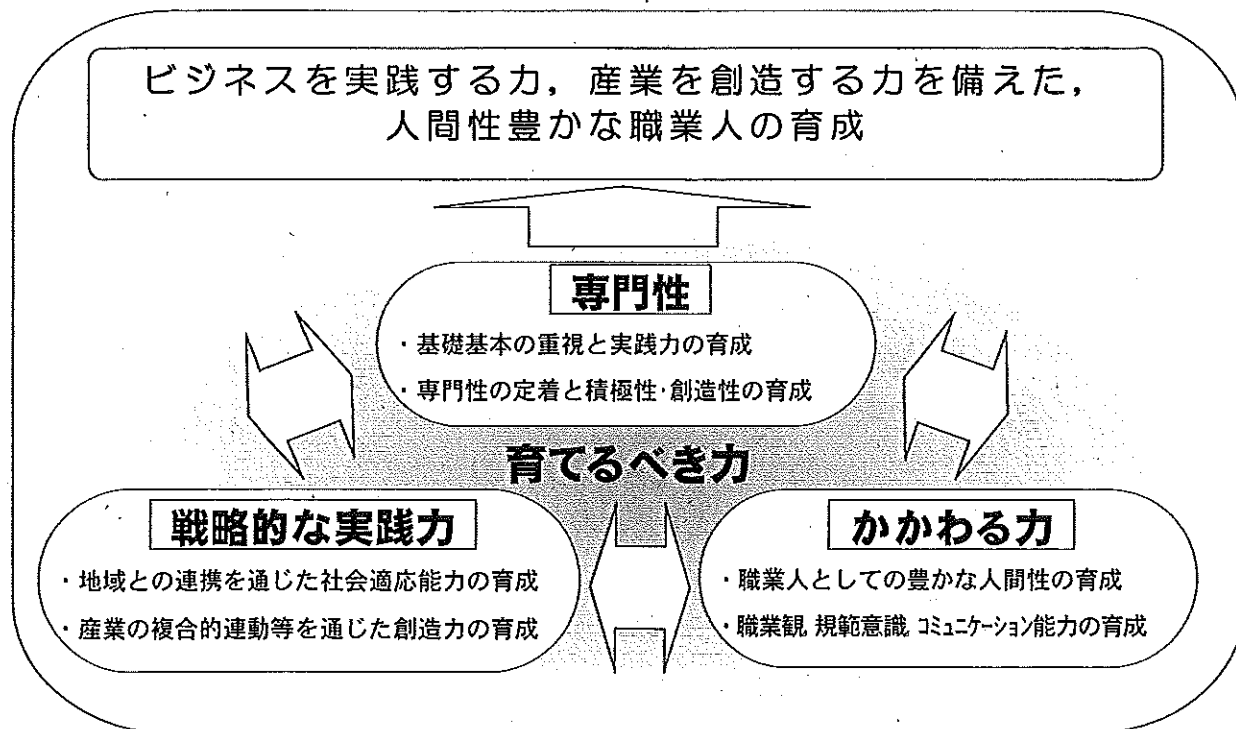
② 地域産業を担う「戦略的な実践力」

- 地域産業や地域社会との連携を通じた実践的な教育を充実させ、戦略的な実践力や社会への適応能力を育成する。
- 地域産業の振興、産業の複合的な連動を通じて創造力を育成する。

③ 職業人としての「かかわる力」

- 人と接し、自然やものとかかわり、命を守り育てる専門教育の特徴を生かし、職業人としての豊かな人間性を育成する。
- 実社会や職業との関わりを通じて、職業観、規範意識、コミュニケーション能力を育成する。

商業教育における人材育成のイメージ



3 本県商業教育の活性化に向けた取組

ビジネスを実践する力、新たな産業を創造する力を備えた、人間性豊かな職業人を育てるため、本県商業教育が取り組むべき方策を策定し、各商業科設置高校が目標を定め、商業教育活性化の実現に向けて、計画的に取り組む必要がある。

- 方策1 中心校の充実と商業科ネットワークの推進
- 方策2 実践的なキャリア教育の推進
- 方策3 グローバル化に対応した教育の推進
- 方策4 産学官連携・高大連携による創造的教育の推進
- 方策5 資格取得や実践的教育によるキャリアアップの推進
- 方策6 6次産業化の取組による地域連携の推進

方策1 中心校の充実と商業科ネットワークの推進

- 徳島商業高校を中心校とし、商業科設置高校が連携して教育活動に取り組み、中心校の充実と全県的な商業教育の展開を図る。
- 教職員が連携して、研修会等を実施し、資質の向上と指導力の向上を図る。
- 商業を学ぶ科目を設置する学校と連携し、商業教育のさらなる充実を図る。
- 商業教育の教育内容や専門性を生かした進路指導について、ICT等を活用して、中学校の生徒、保護者、教職員に広報し、商業教育の拡大充実を図る。

方策2 実践的なキャリア教育の推進

- 基礎的科目「ビジネス基礎」から、総合的科目「課題研究」までの学習の流れとキャリア教育を関連付けたグランドデザインを作成し、指導に生かす。
- 就業体験等を取り入れ、実社会との関わりを通じて、職業意識と規範意識、コミュニケーション能力等に根ざした実践力を高める。
- 外部講師などの積極的な活用を図り、最先端の知識・技能を習得する。

方策3 グローバル化に対応した教育の推進

- 国際交流等を通じて、外国人と触れ合い、海外の魅力に触れることで、グローバル化した経済社会への興味・関心を高める。
- 英語スピーチコンテスト等の参加を通じて、語学力やグローバル社会で活躍できる積極性を身に付ける。
- 情報通信ネットワークを活用して、海外の情報を収集・発信する能力や外国語のコミュニケーション能力を育成する。

方策4 産学官連携・高大連携による創造的教育の推進

- 地域経済の課題解決に向けたビジネスアイデアの提言を通じて、生きた知識や企画力の習得を図る。
- 大学等からの人的・物的支援による発展的・専門的な学習を推進する。
- ICT技術を活用した電子商取引に関する知識・技能やプレゼンテーション能力の育成を図る。

方策5 資格取得や実践的教育によるキャリアアップの推進

- 検定試験や上級資格の取得に積極的に取り組み、成果を就職・進学に生かす。
- 全国競技会出場を目指し、専門的知識・技術の深化や向上心の育成を図る。
- 商品開発、模擬株式会社経営、起業家教育等の実践的な教育に取り組み、ビジネス探求能力の育成を図る。

方策6 6次産業化の取組による地域連携の推進

- 地域経済や産業構造を理解させ、地域産業の振興に参画する意欲を高める。
- 他学科と連携した6次産業化に対応したビジネスモデルを創造する。
- 連携イベントや生産物の販売等を通じて、教育成果を広く地域に発信する。

《参考資料》 各商業科設置高校の特色ある取組

学校名 設置学科	特色ある教育の取組（平成23～25年度）
徳島商業高校 ■情報処理科 ■会計情報科 ■商業科	<ul style="list-style-type: none"> ●商業教育中心校として専門性の高い商業教育の推進 <ul style="list-style-type: none"> ○全商検定、日商簿記2級、基本情報技術者試験等資格取得の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・全商1級全9種目合格者、基本情報技術者試験合格者等の輩出 ○模擬株式会社「ComCom」による商品開発や地域活性化等の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・地元産業界や企業と連携し、11品の新商品を開発（平成25年度） ・地元企業40社のホームページ作成や企業対象の講習会実施によるビジネス支援 ・東日本大震災で被災した宮城県女川第二小学校との継続した交流 ○国際感覚とコミュニケーション能力の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・ドイツのシェーラベルク職業学校との「友好協定」締結による国際交流推進 ・「カンボジア日本友好学園」と連携した商品開発による国際的人材育成 ○商業教育中心校としての教育情報の収集と教職員研修の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・商業科教職員対象の研修会実施による指導力向上の実現
小松島西高校 ■商業科	<ul style="list-style-type: none"> ●全国をリードする起業家教育の推進 <ul style="list-style-type: none"> ○TOKUSHIMA雪花菜工房での商品開発や地域イベントのプロデュース <ul style="list-style-type: none"> ・はちまち狸祭りでの起業家体験を事後の教育活動に生かす ・地元特産のシイタケの軸を有効利用した肉まん「こまつしまん」の開発 ○ビジネスアイデアの実践による地域経済活性化 <ul style="list-style-type: none"> ・徳島ヴォルティス公式戦ピッチ内での「スタジアムウェディング」の企画運営 ○中国語セミナーによる国際交流能力とコミュニケーション能力の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・中国人講師による国際的なコミュニケーション能力の向上
富岡東高校 ■商業科	<ul style="list-style-type: none"> ●勉学と部活動の両立、活力あふれる商業教育の推進 <ul style="list-style-type: none"> ○全商3種目1級資格取得と国公立大学進学に向けた取組 <ul style="list-style-type: none"> ・全商3種目1級合格者 目標40%の達成（平成25年度） ○セルフインターンシップの推進及び報告会等の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・報告会実施や意見体験発表会等への参加によるプレゼンテーション能力の向上 ○ビジネスアイデアの実践による地域経済活性化 <ul style="list-style-type: none"> ・徳島市商店街PRの「動画コンテンツ作成」や活性化案の作成 ・地域企業との交流及びボランティア参加による地域活性化への貢献
海部高校 ■情報ビジネス科	<ul style="list-style-type: none"> ●ICTを活用した地域発信型起業家教育の推進 <ul style="list-style-type: none"> ○「起業体験プログラム」による起業家教育の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・会社設立プロセス体験や起業家の講話による職業観や起業家精神の育成 ○全商3種目1級資格取得の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・学年ごとに目標を設定した計画的指導による生徒の意識向上 ○進路講演会の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・将来の社会的・経済的自立に向けた自覚と進路実現への意欲の醸成
吉野川高校 （鴨島商業高校） ■会計ビジネス科 ■情報ビジネス科 ■食ビジネス科	<ul style="list-style-type: none"> ●吉野川ブランド発信に向けた実践的な商業教育の推進 <ul style="list-style-type: none"> ○農業科等と連携した商品開発に関する取組 <ul style="list-style-type: none"> ・農業科と連携「カラフルマフィン」、「ワッフル」、「おからドレッシング」 ・県内事業所と連携「和菓子」、「弁当2種類」 ○専門性を生かした地域貢献に関する取組 <ul style="list-style-type: none"> ・開放講座で生徒が講師となり地域食材を使用した「野菜摂取量アップのレシピ」の紹介 ・吉野川市のマスコットキャラクターの広報活動、焼き菓子を考案し、各種イベントで販売 ・出前授業の実施（のべ5中学校） ○食ビジネス教育の取組 <ul style="list-style-type: none"> ・職人（マイスター）の直接指導による商品開発に関する専門性の向上 ・学校設定科目「食ビジネス」・「起業実践」で食に関する知識・技術の習得
美馬商業高校 （つるぎ高校） ■商業科	<ul style="list-style-type: none"> ●社会起業家の育成を目指した商業教育の推進 <ul style="list-style-type: none"> ○みまからの6次産業化による地域経済の活性化 <ul style="list-style-type: none"> ・青トウガラシ栽培から加工、販売までの取組とドキュメンタリー映画の作成 ・「みまからバーガー」、「みまからピザ」、「みまからスイーツ」等の開発 ○地域と連携した特産品ネット販売による全国展開 <ul style="list-style-type: none"> ・美馬交流館と連携したネットショップ「みまからドットコム」の運営 ○観光ビジネスや観光イベントの推進 <ul style="list-style-type: none"> ・うだつの町並みを舞台とした参加型PRビデオの作成 ・「美馬和傘作り」、「三味線餅つき体験」の実施による伝統文化継承
三好高校 ■情報ビジネス科	<ul style="list-style-type: none"> ●情報教育の充実と、地域と連携した実践的商業教育の推進 <ul style="list-style-type: none"> ○情報処理関係国家資格取得の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・基本情報技術者試験、ITパスポート試験における継続した合格者輩出 ○農業科と連携した販売実習 <ul style="list-style-type: none"> ・校内店舗「まごころ市」における農業科生産の野菜や加工品の販売 ・東西祖谷地域等での農産物の出張販売による地域連携推進と教育活動のPR ○各種競技会への積極的な取組 <ul style="list-style-type: none"> ・徳島県高等学校ワープロ競技会団体5連覇（平成25年度現在）

第4章 本県農工商が連携した教育の取組

近年の科学技術の進展等にともない、産業界で必要な専門的知識や技術が高度化し、従来の産業分類を越えた複合的な産業が発展している。

高校における農業科、工業科、商業科の専門教育においても、それぞれの専門性の向上を図るための教育に加えて、地域の資源を活用し、新しいビジネスを創出することに優れた、次代を担う人材を育成するため、「農工商連携による6次産業化に対応した実践的な教育」の推進が求められる。

1 農工商連携の推進に関する国及び県の取組

国においては、地域経済活性化のため、地域の基幹産業である農林水産業と商業・工業等との連携（「農商工連携」）を強化し、相乗効果が発揮できるように、様々な取組を実施するとともに、雇用と所得を確保し、若者や子どもも集落に定住できる社会を構築するため、農林漁業生産と加工・販売の一体化や、地域資源を活用した新たな産業の創出を促進するなど、農山漁村の6次産業化を推進している。

（1）国の取組

① 農商工連携の推進

農林業者と商工業者との連携による取組である、「農商工連携」を、地域産業の活性化を図るための重要施策として推進している。

これまでに、農商工連携促進のため、平成20年7月に施行した、「中小企業者と農林業者との連携による事業活動の促進に関する法律（農商工等連携促進法）」をはじめ、農商工連携に関する予算の整備や全国各地での農商工連携関連イベントの開催など、各種支援施策を実施している。

② 6次産業化の推進

農林水産物、バイオマス、自然エネルギー、風景・伝統文化などの「地域資源」を有効に活用し、農林漁業者（第1次産業従事者）がこれまでの原材料供給者としてだけでなく、自ら連携して加工（第2次産業）・流通や販売（第3次産業）に取り組む経営の多角化を進めることで、農山漁村の雇用確保や所得の向上を目指すことが求められている。

こうした6次産業化の取組は、地域内に雇用と所得を確保し、地域の活性化をもたらすことが期待されており、平成23年3月に、「地域資源を活用した農林漁業者等による新事業の創出等及び地域の農林水産物の利用促進に関する法律（六次産業化法）」が施行された。

六次産業化法は、「地域資源を有効に活用し、農林漁業者等による事業の多角化及び高度化に関する施策」並びに「地域の農林水産物の利用の促進に関する施策」を総合的に推進することにより、農林漁業等の振興等を図るとともに、食料自給率の向上等に寄与することを目指している。

（2）県の取組

このような国の動きを踏まえ、本県においても、優れた農産物や地域資源を活用し、従来の産業分類を越えた新しい産業の創出を促進するため、6次産業化に取り組む生産者・事業者の実践的なサポートを行う「六次産業化サポートセンター」を平成25年12月に設置し、6次産業化に関する相談・提案への対応、専門家の派遣による商品開発、首都圏をはじめとする大都市圏における大規模商談会への出店による販路開拓などの支援を行っている。

さらに、農林水産総合技術支援センターの「アグリビジネススクール」における6次産業化講座の開催など、経営感覚に優れた人材育成の取組に加えて、県と徳島大学が主体となった「6次産業化課題解決プロジェクトチーム」を設置し、地域の生産者や事業者が有するアイデアを具体的なビジネスモデルに進化させるための支援を進めている。

本県における取組の先行事例として、本県一のゆず産地、那賀郡那賀町では、地域のゆず農家、県内製菓会社と大手量販店が連携し、「木頭ゆず食文化振興協議会」を結成することにより、ゆず商品の生産、加工、流通、販売を総合的に取り組む地域おこし等の活動を行っている。

また、県内企業においては、人工光による植物工場で栽培した鮮度のある農薬未使用のバジルを活用し、バジルドレッシング、バジルオイルの商品開発を行い、京阪神地域での卸売販売やネット販売により販路拡大を図るなどの事例がある。

2 農工商連携による6次産業化に対応した教育

(1) 各専門高校(分野)が連携した教育

近年において、農業の工業化や生産する商品の流通・販売までも想定した6次産業化が必要とされているが、その実現のための取組や6次産業化を担う人材は不足している。そこで、高等学校の専門教育においては、農業・工業・商業科が連携することにより、従来の枠組みを越えた新たな産業を創出し、地域活性化を担う人材の育成を目指した、6次産業化に対応した教育の推進が求められる。

本県においては、農業科と商業科を併設した「吉野川高校」では、「食ビジネス科」設置による農商が連携した教育、工業科と商業科を併設した「つるぎ高校」では、「地域ビジネス科」設置による工商が連携した教育に取り組んでいる。また、複数の学科を設置する「小松島西高校」では、模擬株式会社「TOKUSHIMA^{おから}雪花菜工房」を運営し、商業科を中心に学科が連携した起業家教育を行っている。

このような複数の専門学科を設置する高校以外においても、農業・工業・商業科を単独で設置する高校が、それぞれの学科の専門性を持ち寄り、相互連携して、生産・加工・販売が一体となった6次産業化に対応した実践的な教育に取り組むことが求められる。その際、6次産業化においては、農業分野における生産活動が基点となるため、農業科を取り入れた連携が重要となる。

連携を進めるにおいては、農業・工業・商業科の設置高校が、それぞれの専門分野の教育活動だけに留まるのではなく、相互に学校間を訪問するなどの交流学习を展開し、学科の領域を越えた調査研究や実習に参画することで、連携校がより一体となった、生産、加工、販売の教育活動を推進することが可能となる。その意味では、学校間における相互の単位認定についての検討が必要となる。

また、複数校の連携した取組を効果的に進めるためには、参画する学校の教育内容や地域性を考慮したうえで、各校での実践内容を分担し、学習成果を共有するなど、連携校間での取組を総合的にコーディネートできる生徒の育成が重要となる。

そして、将来において、地域の農林水産物を高付加価値化する事業等に携わり、市場開拓を先導するとともに、参画する主体間の利害関係を調整し、適正な付加価値配分を行うことができ、異業種横断でプロジェクトを組成・管理し、実績をあげ

ることができる，6次産業化をプロデュースする人材を育成することが，これからの専門教育に求められる。

県内の各地域における連携

県央，県南，県西地域において，農業科，工業科，商業科設置高校が連携・交流することにより，それぞれの専門性や地域の特色を生かした連携を図ることができる。

先行的な取組として，農工商における中心校の連携による6次産業化に対応したビジネスモデルの研究を進めることにより，他の専門高校同士の連携に発展することが望ましい。

県内農業科，工業科，商業科の設置と素材等

	学校名	農業科	工業科	商業科	素材等
県央	城西高校	○			<ul style="list-style-type: none"> ・農工商設置高校の中心校が連携した6次産業化に対応した先行的なビジネスモデルの研究 ・徳島県の特産品（阿波藍，なると金時，鳴門わかめ，和三盆糖，ニンジン，リンゴ，かりかー等）を利用した商品開発 ・伝統野菜の6次産業化と生産振興
	城西高校神山分校	○			
	徳島科学技術高校		○		
	徳島商業高校			○	
県南	小松島西高校			○	<ul style="list-style-type: none"> ・LED等の地場産業との連携等，地元企業と連携した6次産業化に対応した教育 ・豊かな地域資源や県南部特産品（タケノコ，シイタケ，ミカン，スタチ，ウメ，山菜，竹人形等）を利用した商品開発 ・県産材を利用した商品開発
	小松島西高校勝浦校	○			
	阿南工業高校		○		
	富岡東高校			○	
	海部高校			○	
県西	吉野川高校	○		○	<ul style="list-style-type: none"> ・県西部の特産品（シンビジウム，ユズ，ブルーベリー，祖谷そば，みまから等）を利用した商品開発 ・「スクールカフェ」運営，併設直売所，ネット販売による販売戦略 ・各種木工製品，伝統工芸等の商品開発 ・「にし阿波観光」とのタイアップ
	つるぎ高校		○	○	
	三好高校	○		○	

また，学校間の連携という距離的隔たりを解消し，さらに精度の高い農工商連携を可能とするため，一つの学科で6次産業化に対応した教育が実現できる農工商の垣根を越えた新しいタイプの専門学科や，農業，工業，商業の一体化となった複合型の専門高校の在り方についての研究も必要であると考えます。

(2) 高等教育機関や専修学校等と連携した教育

専門教育においては、産業構造の変化や情報化、技術革新の進展により、職業人として必要とされる知識・技能の拡大・高度化に対応し、専門性を高めるとともに、近年の専門高校からの高等教育機関等への進学状況等も踏まえ、より高度な教育を推進するため、大学等の高等教育機関や専修学校と連携した教育が必要である。

農工商が連携した6次産業化に対応した教育の推進においても、徳島大学や阿南工業高等専門学校及び徳島県立農林水産総合技術支援センター・農業大学校などの高等教育機関や専修学校と連携し、人的・物的資源等を相互利用することで、効果的でより専門性の高い教育活動を実現することができる。

そこで、農工商連携に取り組む専門高校においては、生徒一人一人の能力・適性や意欲に合わせて、積極的に高等教育機関や専修学校と連携した教育に取り組む機会を生徒に与えていくと同時に、それらの成果を踏まえた、より高度な6次産業化に対応した教育を展開していくことが必要である。また、これらの教育の充実のためには、教育施設・設備の充実にさらに努めることが重要である。

また、高等教育機関や専修学校においては、農工商連携に取り組む専門高校との連携を通じて、専門分野に強い意欲や関心を持つ高校生に対して、高等教育機関が提供する多彩かつ多様な教育に触れる機会を広く提供するとともに、6次産業化を担う人材育成を目指す新学部などの設置や、農工商が連携した教育を行う専門高校との間で、一貫した教育が行えるような入試制度の導入を望むものである。

そして、専門高校、高等教育機関及び専修学校の関係者が協力し、個々の生徒の能力・適性や意欲を把握するとともに、生徒のニーズや能力・意欲を踏まえたうえで、農工商が連携した6次産業化に対応した教育を実施することが求められる。

高等教育機関や専修学校等と連携した教育の取組例

- 高等教育機関や専修学校等から専門高校に対して、農工商連携に関連した研究・開発や6次産業を担う人材の育成に関する指導を行う。

- 「徳島大学農工商連携セミナー」や「徳島大学農工商連携フォーラム」等、高等教育機関や専修学校等が実施する公開講座や技術研修を専門高校の生徒が

受講し、農産物の商品化について、基礎から販売までの知識・技術を学習する。
また、とくしま産業振興機構による経営者育成のための研修セミナーを聴講することにより「もうかる農業」のための経営者感覚を養う。

- 高等教育機関や専修学校等の講師や教員が専門高校に出向き、出前講座等の講義や実験実習等を行う。また、テレビ会議システムを活用し、高等教育機関や専修学校等から専門高校に対して講義等を配信する。
- 高等教育機関や専修学校等と専門高校における学習の連続性に配慮した教育課程を双方で研究し、専門高校から大学までの一貫した教育により、6次産業化を担う人材を育成する。
- 農業大学校の「アグリビジネススクール」や農業生産法人及び農業関連企業と連携し、農業・農村文化に関する知識や、農業の基礎から農業経営に必要な実践的技術等の多様な分野について学習することで、6次産業化に対応した商品の流通経路の開拓や農業経営の方法を習得する。

(3) 豊富な地域資源を生かした教育

農工商が連携した6次産業化に対応した教育の推進において、地域の特産物や観光地等の豊富な地域資源を生かした取組を行うことで、地域を知り、地域に親しみ、地域の経済活動に貢献できる人材を育成し、地域経済の活性化に結びつけることができると思う。

本県における地域資源を生かした教育の取組例の一つとして、「つるぎ高校」において、工業科と商業科の併設メリットを生かし、地域の特産品「みまから」の生産から加工、販売を体験的に学習することで、6次産業化に対応した教育による地域経済の活性化に取り組んでいる。

「徳島科学技術高校」においては、本県を代表する水産物である「鳴門わかめ」養殖の2期作を行うとともに、消費拡大を図るため、高等教育機関と連携し、6次産業化に対応した教育として、収穫したわかめを用いた商品開発に取り組んでいる。また、塩蔵わかめ製造装置の設計・製作及び同校ブランドわかめ「こはねちゃん」の商標・パッケージデザインの制作にも取り組んでいる。

また、本県は県土面積の75%を森林が占める全国でも有数の「森林県」であるが、一方では、林業従事者が高齢化し、若年層の従事者が少ないことが課題となっている。今後、県産材の増産や森林の循環利用を進め、豊かな森林資源を次世代に引き継ぐために、本県の専門教育において、森林資源などを生かした教育を推進することで、林業を担う人材を確保する必要がある。

本県産業界における木材を使った6次産業化の取組としては、育林作業で発生する間伐材等を、工業分野の新技术により、人や環境にやさしいインテリアの内装材として加工・販売することで、所得の向上や地域雇用の拡大に結びついている事例がある。

現在、本県の林業に関する教育は、「三好高校」において、森林資源の活用などに関する専門的な知識や技術を生かし、新たな地域産業の創出と地域産業の振興に貢献できる人材育成を目標として実施している。今後、豊富な森林資源を保有する地域において、さらなる林業の担い手育成に向けた教育の拡大充実を推進することが必要である。

こうした、豊富な地域資源を生かした農工商連携による教育の推進により、6次産業化をプロデュースできる地域産業の担い手を育成することで、地域資源を活用した地域ブランドの開発や新しい産業の創造による地域の活性化を図ることが求められている。

3 6次産業化のさらなる発展に向けて

高校における農業科、工業科、商業科の専門性の向上を目指すとともに、農工商の連携による6次産業化に対応した教育に取り組むことで、6次産業化をプロデュースできる人材を育成していくことに加え、従前の農林水産業を巡る高齢化や従事者不足等の課題解決に向けて、成長産業やICT技術の導入、グローバルな事業展開による6次産業化のさらなる発展に向けた取組を研究・実践することが望まれる。

6次産業化のさらなる発展のためには、生産・加工・販売の取組全体を通して、省力化・軽労化や精密化・情報化などの視点から革新を図ることが重要と考える。そこで、将来的には、高校教育の段階において、高等教育機関や企業等との連携を通じ、成長産業であるロボット技術やICT等の先端技術を活用した新しい農工商連携の教育を取り入れ、6次産業化の一層の加速化を図ることが有効と考える。

具体的には、農業・工業分野の連携により、ロボット技術を導入したパワーアシストスーツや除草ロボットの開発、栽培の遠隔制御等、取り組みやすい農業の研究・開発を行い、作業を省力化・軽労化することで、農業の新たな担い手や労働力を確保することができる。また、農業・商業分野の連携により、ICT技術を活用し、篤農家の持つ「匠の技」のデータベースや生産情報をクラウドシステムから提供する研究を行い、後継者育成の推進や生産者と消費者及び実需者を直結することにより、商品価値や販売機会の創出が実現できる。そして、新たな展開として、経営の多角化と発展、品質と信頼による世界に向けた農産物の生産、技のデータ化・知財化による農業の知識産業化等の新たなビジネスの創出をもたらすことが期待できる。また、それら実現のためには、専門高校において、十分な予算の確保と先端技術を学べる施設設備の充実が求められるところである。

また、6次産業化に対応した先進的な教育の取組として、海外の専門高校等と連携し、共同で商品開発を行うなど、グローバルな展開によるビジネスモデルのプロデュースを通じて、専門高校で学ぶ子どもたちが、国際経済に関する知識、高い語学力、異なる文化や多様な価値観を習得、理解することにより、将来的に、多様な人々と共同して、世界に向けたビジネスを展開できる人材を育成することも重要である。

このように、専門高校の教育内容に成長産業やICT技術、グローバルな展開を取り入れることにより、地域経済の活性化を担う起業家を育成し、地方創生を目指すとともに、徳島から世界に誇れる教育成果としてのビジネスモデルを創造し、世界へ発信し、そして世界とつながる専門教育を創り上げていきたい。

第5章 農工商設置高校が取り組む活性化策

平成27年度から平成31年度までの5年間に農工商設置高校が活性化に向けて計画的に取り組む内容

※ □数字は農工商の各方策，○数字は年度を示す。

学校名・取組内容	計画（数値目標）
<p>城西高校 【農業科】</p> <p>●農業教育中心校として，郷土や社会の発展のため積極的に行動できる，次世代農業のリーダーを育成する農業教育</p> <p>○持続可能な循環型社会を目指す環境保全型農業を推進 [1]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境保全・水質浄化活動を推進する。 ・GAP手法による環境保全型農業の実践 <p>○学校農場の活性化 [2]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産・販売システムの改善 ・「もうかる学校農場経営」の推進 <p>○農業の担い手推進 [2]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業の担い手（自営・法人就職・進学含） <p>○日本学校農業クラブ徳島県連盟活性化に向けて役割分担 [2]</p> <p>○農業教育学会等の効率的で円滑な運営 [2]</p> <p>○地域の伝統文化の継承と地域の教育資源の活用 [3]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・阿波藍の研究成果 ・伝統野菜の研究 <p>○地産地消の推進 [3]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内農産物販売所，中洲市場，各経済団体主催イベント等での販売活動をとおして地産地消の推進 <p>○関係機関との連携の強化 [3]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業，大学等との連携による担い手育成の推進 ・試験研究機関等での教職員研修 <p>○学校満足度 [3]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒とその保護者の学校満足度 <p>○6次産業化（生命総合産業）の教育活動導入 [4]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校設定科目等教育課程の位置づけ <p>○GAPによる学校農場経営の推進 [4]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・とくしま安²GAP手法による農場経営 	<p>①袋井用水の水質10%改善 ②100%実践</p> <p>③新システム100%定着 ④769万円 → ⑤900万円以上</p> <p>⑥卒業生徒の30%以上</p> <p>⑦1校1役を支援</p> <p>⑧出張等20%精選</p> <p>年間5回以上 年間1品種以上</p> <p>⑨顧客満足度100%</p> <p>年間連携事業1以上 5年間延べ20機関以上</p> <p>⑩生徒・保護者とも100%</p> <p>各学科1科目以上</p> <p>⑪学校農場100%実践</p>

学校名・取組内容	計画（数値目標）
<p>○国内での就業体験の推進 [4]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国内先進地農家・企業等での就業体験等 <p>○職業資格・検定の取得推進 [4]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本農業技術検定 3級 ・園芸装飾技能検定 3級 ・フラワー装飾技能検定 3級 <p>○海外での就業体験と国際交流の推進 [5]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海外ファームステイ研修 ・国際交流等 <p>○地域ブランド商品の開発を推進 [5]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・阿波和三盆糖の新商品開発 <p>○防災教育を推進し、自他の生命を守り生き抜く力を備えた防災の担い手を育成 [6]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校祭・産業教育展等で発表を行う。 	<p>㊦100%実施</p> <p>㊥合格率 92% → ㊦卒業時 100%</p> <p>㊥合格率 61% → ㊦卒業時 80%</p> <p>㊦卒業時 80%以上</p> <p>㊦年間在籍生徒10%以上 年間1回以上</p> <p>㊦5品以上</p> <p>年間2回以上</p>

学校名・取組内容・数値目標	計画（数値目標）
<p>城西高校神山分校 【農業科】</p> <p>●学科の特色を生かし、地域と共に未来へ繋ぐ若者を育てる農業教育</p> <p>○学科の特色を生かした環境教育 [1]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内全面芝生化によるエコ活動をとおした環境保全 ・花と緑の暮らしづくりを推進し緑化意識の啓発活動 <p>○学校農場の活性化 [2]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産・販売システムの改善 ・「もうかる学校農場経営」の推進 <p>○農業の担い手推進 [2]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業の担い手（自営・法人就職・進学含） <p>○円滑な農業教育を推進 [2]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本学校農業クラブ全国大会での最優秀賞受賞 ・ガーデニングコンクールでの受賞 <p>○日本学校農業クラブ徳島県連盟活性化に向けた取組と役割 [2]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・徳島県連盟の活性化を支援 <p>○学校満足度 [3]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒とその保護者の学校満足度 <p>○農業の中心校との連携 [3]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・城西高校と連携した農場生産物等の学習成果をアピールする。 <p>○地域と連携した研修 [3]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栽培技術・安全教育等の教員の資質向上を図る。 <p>○地域と共に行う環境保護活動 [3]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・稀少植物ジンリョウユリの保護活動 <p>○学科の特色を活かした資格取得 [4]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本農業技術検定3級 ・三級造園技能士 ・三級園芸装飾技能士検定 <p>○地域活性化に貢献する若者の育成 [4]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6次産業化に対応したキャリア教育の実施 <p>○非常時に食料支援ができる地域防災の担い手を育成 [6]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・非常時生活訓練 	<p>②推進 → ③完成 年間1回以上</p> <p>③新システム100%定着 ⑤70万円 → ⑥100万円以上</p> <p>⑦卒業生徒の30%以上</p> <p>推進 年間1回以上</p> <p>活性化を推進</p> <p>⑧生徒・保護者とも100%</p> <p>年間10回以上</p> <p>年間2回以上</p> <p>年間1回以上</p> <p>⑨卒業時 100% ⑩合格率 67% → ⑪卒業時 80%以上 ⑫合格率 60% → ⑬卒業時 80%以上</p> <p>年間1回以上</p> <p>年間1回以上</p>

学校名・取組内容・数値目標	計画（数値目標）
<p>徳島科学技術高校 【工業科】</p> <p>●人・地球にやさしいものづくりと地域及び国際社会で活躍できる人材育成をめざした専門教育の推進</p> <p>（全日制）</p> <p>○県工業学会関係の諸活動の充実とホームページを中心とした広報活動の強化 [1] ・ホームページ年間アクセス数の前年度より1割以上増</p> <p>○各種コンテスト、競技会の実施及び指導者技術交流会（研修会）の実施 [1, 5]</p> <p>○e-とくしま推進財団との連携によるICTを活用した専門教育の推進 [1]</p> <p>○SSH（スーパーサイエンスハイスクール）事業の推進 [2～6]</p> <p>○県の機関、四国運輸局、企業と連携したインターンシップ・現場見学会の実施 [2]</p> <p>○企業関係者及び卒業生による進路ガイダンス講演会の実施 [2]</p> <p>○科学フェスティバル等への出展、小中学校への出前授業 [2]</p> <p>○環境貢献ビジネスモデル事業（生徒作品出展、東日本大震災被災地支援）への参加 [2]</p> <p>○地域連携による工業教育を活かした防災訓練の実施 [2]</p> <p>○ドイツの学校との技術交流、ICTによる情報交換の実施 [3]</p> <p>○課題研究成果発表会の実施 [3]</p> <p>○ものづくりを通しての知的財産教育の実践 [3]</p> <p>○大学や水産研究所等から高度な技術に関する講義を受講 [4]</p> <p>○中央テクノスクールの連携協定による高度な技術・技能の習得 [4]</p> <p>○工業・水産教育活性化コーディネータの育成 [5]</p>	<p>②51800件 → ③2930件</p> <p>年間1回以上</p> <p>推進</p> <p>②5推進 → ③0申請</p> <p>実践</p> <p>年間1回以上</p> <p>年間1回以上</p> <p>年間1回以上</p> <p>年間1回以上</p> <p>年間2回以上</p> <p>年間1回以上</p> <p>推進</p> <p>年間②510時間 → ③12時間以上</p> <p>年間2回以上</p> <p>②7検討 → ②8～③1実践</p>

学校名・取組内容・数値目標	計画（数値目標）
<p>○県内大学，研究機関，企業等との連携による地域の資源を活かした食品の開発 [6]</p> <p>○県の機関や企業との連携による環境にやさしい木材製品の研究・開発（杉材を利用した家具の開発） [6]</p> <p>○水産科・工業科併設のメリットを活かした製造機器の開発（食品加工器具の設計・製作，パッケージデザインの開発） [6]</p> <p>（定時制）</p> <p>○生徒に対する検定・資格試験挑戦への啓発及びそれによる生徒の学習意欲の向上 [2]</p> <p>○外部企業・学校等との連携によるコンテスト指導者の育成並びに教員の専門指導力向上のための研修 [5]</p> <p>○本校全日制海洋総合コースとの連携 [6]</p>	<p>②⑦開発 → ③⑩・③⑪商品化</p> <p>②⑦研究・開発 → ③⑩・③⑪製作</p> <p>②⑦設計 → ②⑧～③⑪製作</p> <p>推進</p> <p>年間1名以上</p> <p>推進</p>

学校名・取組内容	計画（数値目標）
<p>徳島商業高校 【商業科】</p> <p>●商業教育中心校としてのグローバルなキャリア教育の展開と推進</p> <p>○研究授業・公開授業及び体験的事業の実施 [1]</p> <p>○商業教育に関する広報活動の実施 [1]</p> <p>○職場体験・インターンシップ等の体験的な活動の実施 [2]</p> <p>○キャリア教育推進のための外部講師の招聘 [2]</p> <p>○ICT等を活用した国際交流の実施 [3]</p> <p>・カンボジア日本友好学園、ドイツシェーラベルク職業学校との交流等</p> <p>○異文化を理解する教育の推進 [3]</p> <p>・カンボジア日本友好学園、ドイツシェーラベルク職業学校との連携等</p> <p>○地元企業に対するビジネスアイデアの提言 [4]</p> <p>○産・学・官との連携事業の実施 [4]</p> <p>○全商3種目1級資格取得の推進 [5]</p> <p>○日商簿記検定2級、基本情報技術者試験資格取得の推進 [5]</p> <p>○商業関係競技会全国大会出場の推進 [5]</p> <p>○地域振興に貢献する校外販売実習の実施 [6]</p> <p>・各種イベント(各経済団体主催等)での商品企画及び販売活動等</p> <p>○6次産業化推進のための商品開発の実施 [6]</p> <p>・校内模擬株式会社ComCom等による取組の推進</p> <p>【中心校としての取組】</p> <p>○先進的な教育内容や教育情報の収集と周知</p> <p>○県内商業科教職員の研修及び研究協議会の実施</p>	<p>年間3回以上</p> <p>年間3回以上</p> <p>年間3回以上</p> <p>年間3回以上</p> <p>年間3回以上</p> <p>年間2回以上</p> <p>年間3回以上</p> <p>年間3回以上</p> <p>㊦15% → ㊩25% (3年生)</p> <p>㊦10% → ㊩15% (3年生)</p> <p>年間5種目以上</p> <p>年間3回以上</p> <p>年間2品以上</p> <p>年間3回以上</p> <p>年間3回以上</p>

学校名・取組内容	計画（数値目標）
<p>小松島西高校 【商業科】</p> <p>●他学科および地域等と連携した実践的ビジネス教育の推進</p> <p>○公開授業週間の実施 ①</p> <p>○教育活動の中学生等への効果的な広報活動 ①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ オープンスクール ・ 商業科の活動パネルの掲示（地域の人が訪れるイベント時） <p>○体験的職業教育の推進 ②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域イベント（商工会議所主催等）での商品企画及び販売活動等 ・ インターンシップ等への参加 <p>○専門科目とキャリア教育の連携した指導 ②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 進路講演会・進路説明会・外部講師による講演 <p>○中国語講座による異文化理解の教育の推進 ③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2年生課題研究中国語講座の実施 <p>○英語スピーチコンテスト等によるコミュニケーション能力の育成 ③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 英語スピーチコンテストへの参加 <p>○地元企業が開催するイベントへの参加 ④</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 徳島ヴォルティス スタジアム学園祭への参加 <p>○創造的なアイデアの創出による地域経済活性化 ④</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ビジネスアイデアコンテストへの参加 <p>○全商1級資格取得の推進 ⑤</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 3種目1級資格取得者の増加 <p>○日商，全経検定受検の奨励 ⑤</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日商，全経検定の受検者数増 <p>○他学科と連携した商品の提案・販売活動の実施 ⑥</p> <p>○地域の食材を使った商品開発 ⑥</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ TOKUSHIMA雪花菜工房等の取組推進 	<p>年間3回以上</p> <p>推進 年間2回以上</p> <p>推進 参加率 100%（卒業までに）</p> <p>年間2回以上</p> <p>推進</p> <p>推進</p> <p>推進</p> <p>推進</p> <p>推進</p> <p>② 3% → ③ 15%（3年生）</p> <p>推進</p> <p>年間2回以上</p> <p>年間2品以上</p>

学校名・取組内容・数値目標	計画（数値目標）
<p>小松島西高校勝浦校 【農業科】</p> <p>●地域との連携を活かし、中山間地農業の活性化の担い手を育てる農業教育</p> <p>○環境教育の推進 [1]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リンドウ・ジンリョウユリ等の絶滅危惧種や希少植物の保護 ・保全活動 ・上勝町棚田の保全活動 <p>○学校農場の活性化 [2]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産・販売システムの改善 ・「もうかる学校農場経営」の推進 <p>○農業の担い手推進 [2]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業の担い手（自営・法人就職・進学含） <p>○日本学校農業クラブ徳島県連盟活性化に向けた取組と役割 [2]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・徳島県連盟の活性化を支援 <p>○交流学习や農業支援の推進 [2]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の小・中学校，特別支援学校等との交流 ・地元病院，老人施設等との交流 <p>○地域に開かれた学校づくりや勢いのある農業教育の推進 [2]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・収穫祭における来場者 <p>○学校満足度 [3]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒とその保護者の学校満足度 <p>○伝統文化・郷土芸能の継承と振興 [3]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人形浄瑠璃の校外公演の推進 <p>○地域貢献・地域連携の推進 [3]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元のJA産直市「よってネ市」や販売実習等での本校農産物の販売 <p>○6次産業化に向けた教育の推進 [4]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の農産物を利用した加工品等の開発・製造 <p>○就業体験学習の推進 [4]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「勝浦塾」での先進農家や企業・事業所等での就業体験の推進 	<p>年間3回以上</p> <p>年間2回以上</p> <p>①新システム100%定着 ②285万円 → ③300万円以上</p> <p>①卒業生徒の30%以上</p> <p>活性化を推進</p> <p>年間5回以上 年間5回以上</p> <p>毎年200人以上</p> <p>①生徒・保護者とも100%</p> <p>年間2回以上</p> <p>年間10品以上</p> <p>年間1品以上</p> <p>①参加率 30%以上</p>

学校名・取組内容・数値目標	計画（数値目標）
<p>○資格取得の推進 4</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日本農業技術検定 3 級 ・ 1 年生対象での刈払機取扱作業安全衛生教育の受講促進 ・ 各種資格・検定等の実施 	<p>㊸合格率 27% → ㊹卒業時 100%</p> <p>㊸取得率 90% → ㊹卒業時 100%</p> <p>年間 5 種類以上</p>

学校名・取組内容	計画（数値目標）
<p>富岡東高校 【商業科】 ●勉学と部活動の両立，活力あふれるビジネス教育の推進</p> <p>○徳島商業高等学校を中心とした商業科教職員の研修への参加 [1]</p> <p>○公開授業，相互授業参観，研修参加等による教職員の指導力向上 [1]</p> <p>○セルフプロデュースインターンシップの充実 [2]</p> <p>○キャリア教育に関連した社会人講座の実施 [2]</p> <p>○交換留学生との交流の推進 [3]</p> <p>○英語スピーチコンテスト等によるコミュニケーション能力の育成 [3]</p> <p>○ビジネスアイデアの創造による地域経済活性化 [4]</p> <p>○阿南商工会議所主催「阿南まちゼミ」への参加 [4] ・社会人から直接指導による知識，技術の向上</p> <p>○全商3種目1級資格取得の推進 [5]</p> <p>○日商簿記検定2級の資格取得 [5]</p> <p>○阿南商工会議所や商店街組合等との連携イベント参加や生産物の販売実習 [6]</p>	<p>推進</p> <p>年間5回以上</p> <p>参加率100%（2年生）</p> <p>年間3回以上</p> <p>推進</p> <p>推進</p> <p>推進</p> <p>推進</p> <p>②540% → ③150%（3年生）</p> <p>②520% → ③125%（3年生）</p> <p>年間2回以上</p>

学校名・取組内容・数値目標	計画（数値目標）
<p>阿南工業高校 【工業科】</p> <p>●地域等と連携したものづくり教育を特色とした工業教育の推進</p> <p>○県工業学会と公的機関との連携によるものづくり指導者研修会の実施 [1, 4, 5]</p> <p>○ホームページ等のICTの積極的な活用による本校の特色の情報発信 [1, 3]</p> <p>○ものづくりに関連する各種技能検定の取得 [1]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受験者の年間合格率 <p>○ものづくりに関連する各種競技大会における四国大会等での上位入賞 [1]</p> <p>○地域と連携した長期インターンシップの年間を通じた実施 [2]</p> <p>○地域と連携した学年全員参加の短期インターンシップの実施 [2]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門職種受入れ割合 <p>○キャリア教育に関する講演会の開催による、社会的・職業的に自立した人材の育成 [2]</p> <p>○起業家教育の積極的な推進 [2]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・模擬株式会社による販売活動 <p>○国家資格等の積極的な取得の推進 [2]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第一種・第二種電気工事士の年間合格率 <p>○ものづくりを通じた学校間連携の推進による工業教育の普及啓発 [2]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校等への出前授業の年間実施数 <p>○地域と連携した防災関連技術の向上 [2]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災関連製品の開発・製作及び地域での利活用 <p>○インターンシップや課題研究に関する発表会の開催による、プレゼンテーション能力の向上 [3]</p> <p>○公的機関等のものづくり技術指導による技術力の向上 [4]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テクノスクール等での技術指導の実施 <p>○ものづくり技術を活かしたロボット技術の向上 [4]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災ロボットの開発・製作 	<p>年間㉕0回 → ㉑2回以上</p> <p>更新回数年間35回以上</p> <p>㉕80% → ㉑100%</p> <p>3位以内入賞者年間1種目以上</p> <p>参加者数㉕9名 → ㉑15名以上</p> <p>㉕50% → ㉑70%以上</p> <p>年間1回以上</p> <p>年間2回以上</p> <p>㉕40% → ㉑70%以上</p> <p>㉕0回 → ㉑2回以上</p> <p>㉗開発 → ㉙～㉓製作</p> <p>年間1回以上</p> <p>年間3回以上</p> <p>㉗開発 → ㉙～㉓製作</p>

学校名・取組内容・数値目標	計画（数値目標）
○公的機関等との連携による教員の専門的指導力の向上 [5] ・テクノスクール等でのものづくり教員研修の年間参加者数	㉔0名 → ㉖2名以上
○農業科・商業科との連携による，6次産業化に向けた取組 [6] ・小松島西高校勝浦校(農業科)，富岡東高校(商業科)との連携の推進	推進
○地域産業であるLED関連技術の向上 [6] ・LED関連製品の開発・製作	㉗開発 → ㉙～㉛製作

学校名・取組内容・数値目標	計画（数値目標）
<p>海部高校 【商業科】</p> <p>●地域発信型起業家教育 (made in Kaifu) の推進</p> <p>○公開授業，相互授業参観の実施 [1]</p> <p>○教職員の研修参加 [1]</p> <p>○進路講演会の充実 [2]</p> <p>○各種発表会の実施 [2]</p> <p>○海外短期留学による国際交流教育の推進 [3]</p> <p>○英語スピーチコンテスト等によるコミュニケーション能力の育成 [3]</p> <p>○ビジネスアイデアの創造による地域経済活性化 [4]</p> <p>○京都賞講演会参加 [4] ・専門性の高い講演による創造的教育の推進</p> <p>○起業体験プログラムによる起業家教育の推進 [5]</p> <p>○全商3種目1級資格取得の推進 [5]</p> <p>○地域イベント（商工産業祭）の推進 [6]</p> <p>○地域連携防災教育の推進 [6] ・防災食の開発，防災グッズの製作等</p>	<p>年間3回以上</p> <p>年間2回以上</p> <p>年間4回以上</p> <p>年間4回以上</p> <p>推進</p> <p>推進</p> <p>推進</p> <p>推進</p> <p>推進</p> <p>推進</p> <p>⑳17% → ㉑20%（3年生）</p> <p>推進</p> <p>推進</p>

学校名・取組内容・数値目標	計画（数値目標）
<p>吉野川高校 【農業科】 ◆は農業科商業科連携</p> <p>●産学官連携による6次産業化を担う産業人の育成を目指した農業教育</p> <p>○押し花アートの普及活動並びに商品化の取り組み [2]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校外貸し出し展示 ・年間貸し出し事業所数 ・作品のコンクール出展による受賞者数 ・商品化に向けた取り組み <p>○学校農場の活性化 [2]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産・販売システムの改善 ・「もうかる学校農場経営」の推進 <p>○農業の担い手推進 [2]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業の担い手（自営・法人就職・進学含） <p>○日本学校農業クラブ徳島県連盟活性化に向けた取組と役割 [2]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・徳島県連盟の活性化を支援 <p>○開放講座，出前授業等の実施による地域交流活動 [2]</p> <p>○学校満足度 [3]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒とその保護者の学校満足度 <p>○地域農業活性化を目指した，高大連携による地域ブランド品を守る研究 [3]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高大連携による出張授業及び研究室での調査研究 ・農家交流による実地研修や栽培技術指導 ・校内圃場における実証実験の推進 <p>◆特色ある地方産品の活用や販路確立による地域産業支援 [3]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域食材の積極的な活用や地域食文化の保存事業 ・イベント開催による販路確保 <p>◆農産物販売所「アグリ吉野川」の運営を通じたビジネスマナーの習得と経営力育成の取り組み [4]</p> <p>○資格取得の推進 [4]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本農業技術検定3級 	<p>㉕15回 → ㉗20回</p> <p>㉖15カ所 → ㉘20カ所</p> <p>全国大会レベル2作品以上入賞 県大会レベル3作品以上入賞 年間1品以上</p> <p>㉙新システム100%定着</p> <p>㉚630万円 → ㉜700万円以上</p> <p>㉝卒業生徒の30%以上</p> <p>活性化を推進</p> <p>年間5回以上</p> <p>㉞生徒・保護者とも100%</p> <p>年間2回以上 年間1回以上 推進</p> <p>年間3回以上 年間3回以上</p> <p>㉟開店24日 売り上げ120万円以上</p> <p>㊱合格率25% → ㊲卒業時100%</p>

学校名・取組内容・数値目標	計画（数値目標）
<p>○農業生産工程管理「GAP」など食の安全・安心や食育を目指した取組 ④</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブドウにおけるGAP取得 ・圃場管理のICT化を促進 <p>◆本校商業科並びに企業との連携による商品開発の促進 ⑤</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商品開発 ・外部講師招へい 	<p>各年度申請 ⑩10品</p> <p>年間1品以上 年間3回以上</p>

<p>【商業科】</p> <p>●吉野川高校ブランドの確立を目指した実践的・体験的なビジネス教育の推進</p> <p>○授業力向上に向けた公開授業の実施と参観 ①</p> <p>○「吉野川高校商業科通信」の発行 ①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・吉野川市・阿波市の中学校に配布 <p>○外部講師の招聘による高度な知識技術の習得 ②</p> <p>○地域の企業等を教材とした、コミュニケーション能力を育成する授業の実践 ②</p> <p>○ネットショップ「YoshinogAWA E-MARKET」の充実 ③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開発商品の全国展開等 <p>○地域の企業等と連携した、課題解決型学習の推進 ④</p> <ul style="list-style-type: none"> ・売り場の確保による販売機会の創出等 <p>○マルチメディアを活用したコンテンツ制作 ④</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育活動のプロモーションビデオ制作等 <p>◆地域の企業や農業科と連携した商品開発 ⑤</p> <p>○全商3種目3級以上資格取得 ⑤</p> <p>○全商3種目1級以上資格取得 ⑤</p> <p>◆吉野川市・阿波市との連携 ⑥</p> <ul style="list-style-type: none"> ・吉野川コレクション等への参加 <p>◆「スクールカフェ吉野川」の運営を通じた実践力の育成 ⑥</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農産物販売所アグリ吉野川と同時開催 ・出張スクールカフェの開催 	<p>年間5回以上</p> <p>年間3回以上</p> <p>年間3回以上</p> <p>年間5回以上</p> <p>推進</p> <p>推進</p> <p>年間3件以上</p> <p>年間1品以上</p> <p>②579% → ③100%（3年生）</p> <p>②4% → ③10%（3年生）</p> <p>年間7回以上</p> <p>年間20回以上 年間3回以上</p>

学校名・取組内容・数値目標	計画（数値目標）
<p>つるぎ高校 【工業科】 ◆は工業科商業科連携</p> <p>●地域社会の発展に貢献できる技術者の育成</p> <p>○近隣高校等と連携したアイデアロボット等の製作 [1]</p> <p>○近隣小学校への防災・エネルギー教育の出前授業の実施 [2]</p> <p>○地元企業への短期インターンシップの企画, 実施 [2]</p> <p>○地域技術者による生徒技能講習と教員の指導力研修 [2, 5]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土砂災害から命を守る擁壁の設計・製作 ・地元棟梁による木材加工技術講習 <p>○国家資格の積極的な取得指導の推進 [2]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第二種電気工事士の年間合格者数 ・第一種電気工事士の年間合格者数 ・第三種電気主任技術者の年間合格者数 <p>○つるぎ町危機管理課と連携した防災マップの製作とホームページでの発信 [2]</p> <p>◆ものづくりによる知的財産教育の実践 [3]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パテントコンテスト及びデザインパテントコンテストへの参加 <p>○災害時に役立つものづくりと寄贈 [4]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・非常用運搬車両, ソーラーかまどベンチ等の製作 <p>○地域と連携した工場見学・発電所見学・建設業協会における現場見学会の実施 [4]</p> <p>○工業短期大学と連携した高齢者を対象とした地域コミュニターの製作 [4]</p> <p>○地域・企業と連携したLEDの高効率化, 長寿命化の研究 [4]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・吉野川堤防沿い桜堤のLED電飾化の実践 <p>○徳島県建築士会の指導による県西部活性化をコンセプトとした建築物の設計と建築甲子園設計コンペへの参加 [4]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建築士会による技術講習会 ・建築甲子園の参加 	<p>年間1台</p> <p>毎年1校で年間3回</p> <p>全科対象に毎年30人以上参加</p> <p>年間1回 年間1回</p> <p>㊵40人 → ㊶45人以上 ㊵10人 → ㊶15人以上 ㊵0人 → ㊶1人以上</p> <p>㊷製作 → ㊸～㊹更新</p> <p>入賞年間1例</p> <p>年間1作品</p> <p>年間各1回以上, 参加者数120名以上</p> <p>㊷製作 → ㊸～㊹改良</p> <p>推進</p> <p>年間3回以上 年間1回</p>

学校名・取組内容・数値目標	計画（数値目標）
<p>○国家資格合格率向上のための指導者研修 [5]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第二種電気工事士技能試験判定員講習会への参加 ・第三種電気主任技術者講習会への参加 <p>◆地域特産品の6次産業化、「みまから」栽培プラントの作成・運用と再生可能エネルギーの利用推進 [6]</p>	<p>年間1人 年間1人</p> <p>推進</p>

<p>【商業科】</p> <p>●美馬から世界を目指すビジネス教育の推進</p> <p>○イベント、販売活動等を、他の商業科設置校と合同で実施し、ネットワーク化を推進 [1]</p> <p>○商業科教員研修会を、他の商業科設置校と合同で実施し、専門性の深化を図る [1]</p> <p>○地元行政機関と連携した起業家教育の実践 [2]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就業体験等の実施 <p>○地域伝統工芸・文化の継承及びビジネス化を目指した、美馬地域ならではの体験的・実践的学習を推進 [2]</p> <p>○英語スピーチコンテスト等による国際交流能力の育成 [3]</p> <p>○みまからの海外での販売を目指した調査研究の推進 [3]</p> <p>◆産学官連携による地域活性化に資するビジネスアイデアの提案 [4]</p> <p>○高大連携による地域をテーマとしたデジタルコンテンツ作品の制作 [4]</p> <p>○全商3種目1級資格取得 [5]</p> <p>○全商主催各種競技大会での全国大会出場 [5]</p> <p>◆農工商連携による「みまからの6次産業化」の推進 [6]</p> <p>◆地域資源を活用した農工商連携による商品開発 [6]</p>	<p>年間3回以上</p> <p>年間3回以上</p> <p>年間3回以上</p> <p>年間3回以上</p> <p>年間3回以上</p> <p>推進</p> <p>推進</p> <p>年間1提案以上</p> <p>年間1作品以上</p> <p>㊦10% → ㊩20%（3年生）</p> <p>㊦3種目 → ㊩4種目以上</p> <p>推進</p> <p>㊦年間1品 → ㊩年間2品以上</p>

学校名・取組内容・数値目標	計画（数値目標）
<p>三好高校 【農業科】 ◆は農業科商業科連携</p> <p>●地域とつながり、未来へつながる「地域密着型」農業教育の実現</p> <p>○環境保全型農業の推進 [1] ・鶏糞堆肥化技術の確立と商品化</p> <p>○自然環境保全などの環境教育の推進 [1] ・黒沢湿原のサギソウ保護活動</p> <p>○自然エネルギーを利用した農業教育の推進 [1] ・校内におけるBDF利用</p> <p>○教職員資質向上プログラムの推進 [2] ・授業力向上研修</p> <p>◆学校農場の活性化 [2] ・生産・販売システムの改善 ・「もうかる学校農場経営」の推進</p> <p>○農業の担い手推進 [2] ・農業の担い手（自営・法人就職・進学含）</p> <p>○日本学校農業クラブ徳島県連盟活性化に向けた取組と役割 [2] ・徳島県連盟の活性化を支援</p> <p>○学校満足度 [3] ・生徒とその保護者の学校満足度</p> <p>○開かれた学校作りの推進 [3] ・学校開放講座</p> <p>○地域活性化に向けた地域貢献活動の推進 [3] ・学習成果を地域で活用する取組を推進（農家支援活動・異校種間連携等）</p> <p>○地域産業の担い手育成を目指した取組 [3] ・長期現場実習の推進</p> <p>◆経営力・倫理観を持った人材の育成 [4] ・校内販売所・イベントでの販売実習の充実・推進 ・GAPによる学校農場経営の推進 ・資格・検定取得の推進</p>	<p>推進</p> <p>推進</p> <p>推進</p> <p>年間3回</p> <p>①新システム100%定着 ②600万円 → ③700万円以上</p> <p>①卒業生徒の30%以上</p> <p>活性化を推進</p> <p>①生徒・保護者とも100%</p> <p>年間5回以上</p> <p>年間10回以上</p> <p>年間10回以上</p> <p>年間30回以上 推進 年間延べ100人以上</p>

学校名・取組内容・数値目標	計画（数値目標）
<p>○資格取得の推進 [4]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本農業技術検定3級 卒業時まで合格100% <p>◆地域ブランド商品の開発と地域への普及 [5]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホンシメジの培養技術の向上等，地域ブランド商品の開発 ・農家・企業・料理店等への普及成果 ・産官学連携による商品開発の推進 <p>○非常時の食生活支援等に取り組む，地域防災の担い手を育成 [6]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・簡易生活キット（食料確保・プライバシー保護・簡易トイレ等）の研究 	<p>㊦合格率 90% → ㊧卒業時 100%</p> <p>推進 ㊨20戸（社・店舗）以上 ㊩5品目以上</p> <p>学校祭で発表</p>
<p>【商業科】</p> <p>●情報教育の充実と，地域と連携した実践的ビジネス教育の推進</p> <p>○公開授業の実施 [1]</p> <p>○魅力ある授業の充実を図るための研修への参加 [1]</p> <p>○キャリア教育を図るためのビジネスマナー教育の推進 [2]</p> <p>○異文化理解の教育の推進 [3]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内販売所での外国語表記による商品のPR等 <p>◆ビジネスアイデアの実践による地域経済活性化 [4]</p> <p>○情報処理関係国家資格取得の推進 [5]</p> <p>○全商3種目1級資格取得の推進 [5]</p> <p>◆地域出張による販売実習 [6]</p> <p>◆校内店舗所による販売実習 [6]</p> <p>※ 三好高校の商業科（情報ビジネス科）は平成27年度より募集を停止する。</p>	<p>年間2回以上</p> <p>推進</p> <p>推進</p> <p>推進</p> <p>推進</p> <p>㊪11% → ㊫20%（3年生）</p> <p>㊬28% → ㊭40%（3年生）</p> <p>㊮年間2回 → ㊯年間3回以上</p> <p>㊰年間8回 → ㊱年間10回以上</p>

《参考資料》

徳島県農工商教育活性化協議会委員

(50音順・敬称略)

氏 名	役 職 等
荒 井 義 之	徳島県産業教育振興会役員
伊 勢 和 彦	徳島県高等学校教育研究会工業学会代表
市 川 恵 子	徳島県高等学校PTA連合会代表
岩 浅 良 治	徳島県産業教育振興会役員
岩 浅 芳 行	徳島県高等学校教育研究会商業学会代表
近 藤 宏 章	徳島県産業教育振興会役員
谷 明 彦	徳島県PTA連合会代表
丹 羽 敦 子	徳島県中学校長会代表
○ 野 地 澄 晴	徳島大学理事・副学長
松 村 茂	徳島県高等学校教育研究会農業学会代表
山 本 紘 一	徳島県産業教育振興会役員
陽 地 政 宏	徳島市・名東郡PTA連合会代表
吉 田 靖	阿南工業高等専門学校校長

○ 会長

(役職等については就任当時のものを記載)

徳島県農工商教育活性化方針 ～6次産業化を支える人材育成に向けて～

徳島は宣言する
VS 東京

構成概要

推進期間(5年):平成27年度～平成31年度

- ◆ これまでの各農工商計画等を統合するとともに、6次産業化に対応した計画
- ◆ 学識経験者等で構成する「徳島県農工商教育活性化協議会」の提言を反映

1 農業教育の活性化

基本理念

循環型社会の実現を目指した農業教育
地域を支える・地域を創る次代の担い手

科学性・社会性・指導性の育成

活性化に向けた主な方策

・地域連携, ネットワーク強化

2 工業教育の活性化

基本理念

豊かな創造力と国際的な視野を持ち,
確かな知識・技術とものづくりの実践力を備えた職業人

実践力・創造力・行動力の育成

3 商業教育の活性化

基本理念

ビジネスを実践する力, 産業を創造する力を備えた
人間性豊かな職業人

専門性・戦略的実践力・かかわる力の育成

・グローバル化への対応 など

4 農工商連携による6次産業化に対応した教育

各高校における教育

- 農・工・商設置高校の連携による教育の推進
- 農工商の垣根を越えた新しいタイプの
専門教育の在り方について研究

《主な取組》

- 農工商設置高校が連携した新たなビジネスモデル
の研究と開発
- 観光資源の活用, 地域産業との連携教育

高等教育機関や専修学校等と連携した教育

- 人的・物的資源の相互交流による教育の高度化
- 専門高校から高等教育機関への継続的教育の
調査研究

《主な取組》

- 県農大「アグリビジネススクール」と連携した農業
経営の修得
- 高大の教育プログラムの相互乗り入れ

豊富な地域資源を生かした教育

- 地域振興に貢献できる人材育成による
地域経済の活性化
- 森林資源等を生かした担い手育成教育の充実

《主な取組》

- 地域資源(鳴門わかめ, 阿波藍, 和三盆糖, 県産
材など)を活用した生産, 商品開発, 販売までの
実践的な取組をさらに拡大

5 農工商設置高校が取り組む活性化策

- 各農工商設置高校の実践(数値目標設定)

《主な取組》

- ・もうかる学校農場経営, 地域の伝統生産物の継承
- ・ICT活用, ネットショップ等の展開
- ・大学, 企業, 経済団体と連携したビジネスアイデア, 商品企画

・開発商品の高校ブランドの確立

・グローバル教育の実践(カンボジア日本友好学園, ドイツ職業学校との国際技術交流)

・国家資格取得の推進 など

農工商各専門分野に関する知識, 技能を備えるとともに, 6次産業化を実践できる人材の育成!!



